

授業要綱

2022年度（令和4年度）

理学療法学科 夜間部

専門学校 社会医学技術学院

理学療法学科 夜間部

2022年度（令和4年度）

目次

教育理念・教育目標・3つのポリシー

教育理念・教育目標	・・・	1
・3つのポリシー		

1年生

《基礎分野》

基礎力養成講座	・・・	2
情報社会と情報リテラシー	・・・	3
バイオメカニクス	・・・	4
医療コミュニケーション論	・・・	5

《専門基礎分野》

解剖学 I a	・・・	6-7
解剖学 I b	・・・	8-9
解剖学 II	・・・	10-11
生理学 I a	・・・	12
生理学 I b	・・・	13
生理学 II a	・・・	14
生理学 II b	・・・	15
人間発達学	・・・	16
臨床心理学	・・・	17
リハビリテーション概論	・・・	18

《専門分野》

理学療法概論	・・・	19
理学療法演習 I	・・・	20
フィジカルアセスメント	・・・	21
生活環境支援理学療法学	・・・	22
臨床見学実習	・・・	23

2年生

《専門基礎分野》

運動学 I	・・・	24
運動学 II	・・・	25
運動学演習	・・・	26
病理学概論	・・・	27
臨床神経学	・・・	28～29
整形外科学 I	・・・	30
整形外科学 II	・・・	31
臨床内科学 I	・・・	32
臨床内科学 II	・・・	33
リハビリテーション医学	・・・	34
社会医学	・・・	35

《専門分野》

理学療法演習 II	・・・	36
理学療法評価学 I	・・・	37～38
理学療法評価学 II	・・・	39～40
運動療法学	・・・	41
日常生活活動論	・・・	42～43
地域理学療法学	・・・	44
臨床実習 I	・・・	45

3年生

《専門基礎分野》

疾病管理論	・・・	46
臨床運動学	・・・	47～48

《専門分野》

理学療法演習 III	・・・	49
理学療法評価学 III	・・・	50
理学療法臨床推論	・・・	51
運動器系理学療法学	・・・	52～53
中枢神経系理学療法学 I	・・・	54～55
中枢神経系理学療法学 II	・・・	56
発達系理学療法学	・・・	57

神経筋系理学療法学	・・・	58
物理療法学	・・・	59~60
日常生活活動論演習	・・・	61
義肢装具学	・・・	62~63
内部系理学療法学	・・・	64~65
臨床実習 II	・・・	66

4 年 生

《基礎分野》

行動科学	・・・	67
統計学	・・・	68

《専門分野》

理学療法概論 II	・・・	69
理学療法研究法演習	・・・	70
運動療法学特論	・・・	71
社会福祉学	・・・	72
地域理学療法論	・・・	73
地域福祉論	・・・	74
臨床実習 III-A	・・・	75
臨床実習 III-B	・・・	76

★ (すべての音楽科入生がやる) → オリジナル曲 下次

お手本へ、おまかせ曲を聴きながら必ず歌詞を覚えてお詠唱の仕事で歌うことを、見習いとしておこなう

CDなどからお好みの音楽を聴きながら歌詞を覚えてお詠唱の仕事で歌うことを、見習いとしておこなう

《教育理念》

本校は、人により添い、生きることを支えるために、専門的知識及び技術を習得するとともに、深い人間愛と高い人間性を涵養し、社会に貢献する理学療法士・作業療法士を育てます。

《教育目標》

1. 人の思いや痛み、苦しみや喜びを共感できる豊かな人間性の育成
2. 多職種と連携して自己の役割を果たせるコミュニケーション能力の育成
3. 人が抱える問題を論理的・創造的に解決できる思考力の育成
4. 科学的根拠に基づいた確かな専門知識・技術の育成
5. 専門職として生涯にわたり学習し、研鑽し続ける意欲の育成

《3つのポリシー》

・アドミッションポリシー（このような人をもとめています）

自分の経験を活かし理学療法士・作業療法士として働く意志を表明し、以下を満たす人

- 1) 情熱を持ち、困難な状況にある人々を積極的に支援しようとする人
- 2) 肯定的な人間観を持ち、人格を尊重できる人
- 3) 論理的な思考ができ学習に熱意がある人

・カリキュラムポリシー（このような教育を行います）

教育目標を達成するために、成長する基礎力—深く考える力・共感する力・科学する力—を育む教育

- 1) 個々人の能力に適した方法で提供する、学生中心の教育
- 2) 医療や地域、また対象となる人の生活を考慮した幅広いリハビリテーション分野の教育
- 3) 他（多）職種や、対象となる人に関わる人々と連携するために必要な教育

★ ディプロマポリシー（このような人材を育てます） ★

リハビリテーションの理念のもと、対象となる人は生活者であることを理解し適切なサービスを提供できる人材

- 1) 人を一個の人格として尊重し、人の思いや痛み、苦しみや喜びに共感できる人…DP1
- 2) 対象となる人に対し、医学的にだけでなく、生活している環境に対しても働きかけられる人…DP2
- 3) 他（多）職種との連携を理解し、常に対象となる人にとって最善の支援を追求できる人…DP3
- 4) 専門職として生涯研鑽し、自己と専門職の発展のために行動できる人…DP4

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	基礎力養成講座				
担当者氏名	小島 肇				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

ディプロマポリシーで掲げる理学療法士養成への円滑な導入を図るために、社医学での学生生活上のマナー、スタディスキルを学ぶこと。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

野矢茂樹『増補版 大人のための国語ゼミ』、筑摩書房 2018.
滝浦真人、草光俊雄『日本語アカデミックライティング』、放送大学教育振興会 2017.

《目標行動(SBO)》

1. 本校が求める学生生活上のマナーを習得できる。
2. 本校で求められるスタディスキルを習得できる。

《学生の留意点》

「ことば」、「問い合わせ」、「考える」の3つをキーワードに、本校での職業教育の導入を図る科目です。対話を通して、学びとは何か、手を、頭を動かしながら考えていきましょう。

《成績評価の方法》

課題 60点 4点×15回,
レポート 40点 20点×2本： 説明文、読書感想文

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験から臨床現場に即した授業を展開します。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション、マナー、学習管理システム	本コースの目的、目標、成績評価について。 挨拶の作法、Google Classroomの使い方。
2	基礎力評価	筆記試験
3	「ことば」①	文章の種類
4	「ことば」②	主観的な文章とは何だろう
5	「ことば」③	客観的な文章とは何だろう
6	「問い合わせ」①	授業の構造を知り、「問い合わせ」を考えよう
7	「問い合わせ」②	「問い合わせ」を創ろう
8	「問い合わせ」③	グループ学習を学ぼう
9	「問い合わせ」④	チームビルディングとは何か
10	「問い合わせ」⑤	生理学を勉強しよう①
11	「問い合わせ」⑥	生理学を勉強しよう②
12	「考える」①	論理的思考を学び、患者の問題解決の基本を理解しよう
13	「考える」②	レポートの書き方を学ぼう
14	「考える」③	自分を見つめ、自分を知ろう
15	「考える」④	ハラスメントを考えよう / 本コースのふりかえり

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	情報社会と情報リテラシー				
担当者氏名	和島 英明、村上 知也、沼尾 拓				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

私たちの生活を取り巻く情報社会の現状を理解し、正しい情報収集方法、情報の吟味、情報セキュリティ、また情報を取り扱うスキルとマナーなどについて理解する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

必要に応じて提示する

《目標行動(SBO)》

- 1) 情報社会の中の「情報」の基本的意義を理解できる
- 2) 情報社会(SNS、情報マナー、セキュリティ等)の現状と正しい取り扱い方法を理解できる
- 3) 情報収集スキルとともにパワポでまとめることができる
- 4) 「統計」の基本と活用法について理解できる

《学生の留意点》

本科目の内容を十分理解し、日常の情報の正しい取り扱いに活かしてほしい

《成績評価の方法》

課題評価 (100%)

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における中小企業診断士、理学療法士としての実務経験を、情報リテラシーという観点から授業内容に活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	情報力とは	(村上)
2	数字を読む力～数字に騙されないために～	(村上)
3	今どきのIT①	AI、IoT、RPA等について (村上)
4	今どきのIT②	SNS、情報マナー、セキュリティ等について (村上)
5	情報収集と整理力	アナログとデジタルでの収集、フレームワーク (村上)
6	思考力	思考法の種類と実践 (村上)
7	医学文献の見方・調べ方①	医学中央雑誌など (和島)
8	医学文献の見方・調べ方②	Googleスカラシップなど (和島)
9	医学文献の見方・調べ方③	文献の見方・形式・表記など (和島)
10	統計とは	統計の必要性、考え方 (沼尾)
11	臨床と統計	EBPTや研究における統計の活用、論文の読み方 (沼尾)
12	基本統計量	基本的な統計用語、統計量の定義 (沼尾)
13	データの視覚的表示	ヒストグラム、棒グラフ、散布図、など (沼尾)
14	データと分布	母集団、標本、正規分布、など (沼尾)
15	まとめ	(和島)

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	バイオメカニクス				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

理学療法を修得するために、基本的な身体運動を力学から理解する。

《テキスト》

山本澄子他著：『基礎バイオメカニクス 第2版』、医歯薬出版 2015年。、中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』、医歯薬出版、2012年。

《参考図書》

小野文久著：『初歩の物理』、裳華房 2008年
勝平純司他著：『介助にいかすバイオメカニクス』、医学書院 2011年。

《目標行動(SBO)》

- 「運動の法則」を説明できる。
- 「生体におけるテコ」を理解できる。
- 「重心」を求めることができる。
- 「床反力」を説明できる。
- 「関節モーメント」を理解できる。
- 「立ち上がり」を力学から説明できる。
- 「歩行」を力学から説明できる。

《学生の留意点》

中・高校の知識から「運動学」への展開を図る科目です。日常生活のなかの「物体の運動」から「身体運動」の理解へと発展させます。身近な物体やヒトの「動き」を注意深く観察する習慣を身につけましょう。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概要	オリエンテーション、人体における方向・位置の表現、運動の面と軸、代表的な骨と関節と筋
2	導入	骨と関節の運動、たるみと張力（高校物理）
3	導入	運動の観測、運動学的分析（クロールの動きを真似して再現してみたり、上手にできるように教えあってみよう）
4	運動の法則①	力の合成と分解
5	生体におけるテコ①	生体におけるテコ①（少ない力で効果的に働くことを体験してみよう）
6	姿勢	良い座位姿勢と立位姿勢 位置エネルギーと運動エネルギー（高校物理）
7	重心	重心の求め方（臥位姿勢と座位姿勢の重心の位置を体圧分析装置で体験しよう）（高校物理）
8	外力	床反力、床反力作用点 作用反作用の法則（高校物理）
9	内力	関節モーメントと筋活動
10	不良姿勢	悪い姿勢の体験（筋肉が痛くなる体験を外力と内力の観点から考えてみよう）
11	バイオメカニクスの応用①	「立ち上がり」（支持基底面が狭くなり、重心が高くなることを実感し、足の主動作筋を明らかにしよう）
12	バイオメカニクスの応用②	「床からの起き上がり」（支持基底面が狭くなり、重心が高くなることを実感し、手や体幹の主動作筋を明らかにしよう）
13	バイオメカニクスの応用③	「歩行」（正常歩行を再現してみよう）
14	バイオメカニクスの応用④	「異常歩行」（関節を制限したり、筋肉を使わない悪い姿勢を真似て歩くことで起こる変化を考えよう）
15	まとめ	まとめ

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解》

科目名	医療コミュニケーション論				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

医療従事者としてのコミュニケーションを図れるようになるために、コミュニケーションの本質を学び、ノンバーバルコミュニケーションも含めた関係構築の方法を習得し、表現できる。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

山口美和：『PT・OTのためのこれで安心コミュニケーション実践ガイド』第2版、医学書院、2016年。

《目標行動(SBO)》

- 「コミュニケーション」とは何か、説明できる。
- 自己表現ができるが、他者が何を考えているのか「考え方」を推察し、まとめることができる。
- 患者・家族との対話を想定し、インフォームドコンセント、エビデンス、多様性を考えながら演習できる
- 多様性の中で意思決定に至るためのシェアード・ディシジョン・メイキングを演習できる

《成績評価の方法》

ミニッツペーパー(50%)、演習発表(50%)

《学生の留意点》

人と関わるうえでコミュニケーションは重要な要素です。医療人として身につけておきたい基本的なコミュニケーションの知識・技術を演習やグループワークを通して学びます。実際の現場を想定して、積極的に参加してください。

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、理学療法士が担当し、その実務経験を活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション・総論	医療者になるための準備、コミュニケーションの本質と目的
2	コミュニケーションの基本①	信頼関係について（約束、ルールなど）
3	コミュニケーションの基本②	第一印象について、ノンバーバルコミュニケーションの必要性
4	コミュニケーションの基本③	コミュニケーションの技法、質問の種類
5	コミュニケーションの基本④	相手を考えたコミュニケーション
6	メールでのコミュニケーション	メールマナーについて
7	自己表現	伝える自己表現から、伝わる自己表現へ
8	他己表現	他者を知り、他者を伝える
9	医療場面のコミュニケーション①	問診と医療面接について 「聞く」「聴く」「訊く」について
10	医療場面のコミュニケーション②	インフォームドコンセントについて エビデンスとダイバーシティについて
11	医療場面のコミュニケーション③	インフォームドコンセント、エビデンス 演習
12	医療場面のコミュニケーション④	多様性の中で意思決定に至る過程 シェアード・ディシジョン・メイキング
13	医療場面のコミュニケーション⑤	シェアード・ディシジョン・メイキング 演習①
14	医療場面のコミュニケーション⑥	シェアード・ディシジョン・メイキング 演習②
15	医療場面のコミュニケーション⑦	シェアード・ディシジョン・メイキング 演習③

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節靭帯学、筋学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』、文光堂、2012

《目標行動(SBO)》

- 全身の骨の種類と構造、発生と成長について説明できる。
- 全身の関節の構造と種類について説明できる。
- 筋の分類と作用、補助装置、上肢の筋について説明できる。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013 [準教科書扱い]

横地千仞：『カラーアトラス 人体一解剖と機能』、医学書院、2013

野村巖：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』、医学書院、2020年。

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失すことのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	解剖学総論	解剖学の概要、解剖学用語
2	〃	解剖学の概要、解剖学用語
3	骨学総論	骨の種類と構造、骨の発生と成長
4	〃	骨の種類と構造、骨の発生と成長
5	骨学各論	体幹の骨格（脊柱）
6	〃	体幹の骨格（脊柱）
7	〃	体幹の骨格（胸郭）
8	〃	体幹の骨格（胸郭）
9	〃	上肢の骨格
10	〃	上肢の骨格
11	〃	下肢の骨格
12	〃	下肢の骨格
13	〃	頭蓋の骨格
14	〃	頭蓋の骨格
15	復習	復習

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I a				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、骨学、関節靭帯学、筋学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』、文光堂、2012年。

《目標行動(SBO)》

- 全身の骨の種類と構造、発生と成長について説明できる。
- 全身の関節の構造と種類について説明できる。
- 筋の分類と作用、補助装置、上肢の筋について説明できる。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。〔準教科書扱い〕

横地千仞：『カラーアトラス 人体－解剖と機能』、医学書院、2013年。

野村嶌：『標準理学療法学・作業療法學専門基礎分野 解剖学』、医学書院、2020年。

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失すことのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	復習	復習
2	関節靭帯学総論	関節の一般構造と種類
3	〃	関節の一般構造と種類
4	関節靭帯学各論	体幹、上肢の関節
5	〃	体幹、上肢の関節
6	〃	下肢の関節
7	〃	下肢の関節
8	筋学総論	筋の分類と作用、筋の補助装置
9	〃	筋の分類と作用、筋の補助装置
10	筋学各論	頭頸部の筋
11	筋学各論	頭頸部の筋
12	〃	上肢帶の筋
13	〃	上肢帶の筋
14	〃	上肢の筋
15	〃	上肢の筋

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I b				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』。文光堂、2012年。

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる。
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』。廣川書店、2013年。〔準教科書扱い〕

横地千俊：『カラーアトラス 人体一解剖と機能』。医学書院、2013年。

野村嶌：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』。医学書院、2020年。

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失すことのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	筋学各論	体幹筋
2	〃	体幹筋
3	〃	下肢帯の筋
4	〃	下肢帯の筋
5	〃	下肢の筋
6	〃	下肢の筋
7	内臓学総論	内臓の一般的構造と体内における配置
8	〃	内臓の一般的構造と体内における配置
9	内臓学各論	消化器系
10	〃	消化器系
11	〃	消化器付属腺
12	〃	消化器付属腺
13	〃	循環器系（心臓と血管）
14	〃	循環器系（心臓と血管）
15	〃	循環器系（リンパ系）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学 I b				
担当者氏名	秋元 義弘				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるために、筋学、内臓学について学ぶ。

《テキスト》

平田幸男訳：『解剖学アトラス第10版』、文光堂、2012年。

《目標行動(SBO)》

1. 体幹、下肢の筋について説明できる。
2. 内臓全般（消化器、循環器、呼吸器、泌尿器、生殖器、感覚器）の構造と配置について説明できる。

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013年。〔準教科書扱い〕

横地千仞：『カラーアトラス 人体－解剖と機能』、医学書院、2013年。

野村嶌：『標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 解剖学』、医学書院、2020年。

《学生の留意点》

骨格標本をはじめとする人体標本に対して礼を失すことのないよう真摯な態度で接すること。

《成績評価の方法》

期末試験（筆記）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	内臓学各論	循環器系（リンパ系）
2	〃	呼吸器系
3	〃	呼吸器系
4	〃	内分泌系
5	〃	内分泌系
6	〃	泌尿器系、男性生殖器系
7	〃	泌尿器系、男性生殖器系
8	〃	女性生殖器系
9	〃	女性生殖器系
10	〃	発生学
11	〃	発生学
12	〃	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
13	〃	感覚器系（皮膚、味覚、嗅覚）
14	〃	感覚器系（眼、耳）
15	〃	感覚器系（眼、耳）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学II				
担当者氏名	宮東 昭彦				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるとともに、より発展的な内容を持つ他科目的理解を助ける基礎的な概念を整理するため、神経系、脈管系について学ぶ。

《目標行動(SBO)》

- 中枢神経系の基本構造と部位名を、主に断面像を用いて、機能と関連付けて説明できる
- 中枢神経系の伝導路について説明できる
- 脳神経と脊髄神経を列挙、走行経路と神経支配を説明できる

《テキスト》

平田幸男 訳：『解剖学アトラス』原著第10版、文光堂、2012.

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013.

野村 嶽 編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』、医学書院、2020.

《学生の留意点》

新しい概念や用語が非常に多いので、講義ごとの復習が重要。質問は電子メール [akudo@ks.kyorin-u.ac.jp] にて随時受け付ける。

《成績評価の方法》

期末筆記試験 90%，復習テスト 10%。復習テストは、前週に予告の上、講義時間中に複数回実施する。再試験は、期末筆記試験の成績不振者を対象として行う。

《実務経験のある教員による科目》

解剖学教室の外来講師による神経系、脈管系を講義形式で実施する。実務経験のある理学療法士（坂田）により、神経系、脈管系の知識を整理する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経系序説（宮東）	神経系についての基礎知識 神経系とは、中枢神経と末梢神経、神経細胞と神経線維
2	神経系総論（宮東）	シナプスとニューロン系、脳の発生と構成、中枢神経系の基本構造
3	中枢神経系（宮東）	神経組織とグリア細胞、灰白質と白質、神経核と線維路について
4	中枢神経系（宮東）	脳室系・髄膜と脳脊髄液系、脳の方向と断面
5	中枢神経系（宮東）	大脳の構造、大脳皮質（新皮質、古皮質、原皮質）
6	中枢神経系（宮東）	大脳新皮質の機能局在：知覚領・運動領・連合中枢
7	中枢神経系（宮東）	大脳基底核と髓質 線条体と内包
8	中枢神経系（宮東）	間脳の構造、松果体、視床と視床核、視床下部、下垂体
9	中枢神経系（宮東）	脳幹（中脳、橋、延髄）の構造と伝導路、網様体
10	中枢神経系、伝導路（宮東）	脊髄の構造と機能局在、伝導路
11	中枢神経系、伝導路（宮東）	小脳 構造、機能による区分、伝導路
12	中枢神経系、伝導路（宮東）	運動性の伝導路：錐体路ほかの脊髄下行路と運動を調節する伝導路
13	中枢神経系、伝導路（宮東）	感覺性の伝導路：体性感覚の種類と伝導路
14	末梢神経系（宮東）	脳幹と脳神経、脳神経1～2（嗅神経、視神経）
15	末梢神経系（宮東）	脳神経3, 4, 6（眼筋を支配する脳神経）、視覚反射

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	解剖学II				
担当者氏名	宮東 昭彦				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

人体の正常な形態とその形成過程及び機能的意義について理解を深めるとともに、より発展的な内容を持つ他科目的理解を助ける基礎的な概念を整理するため、神経系、脈管系について学ぶ。

《目標行動(SBO)》

3. 脳神経と脊髄神経を列挙、走行経路と神経支配を説明できる。
4. 心臓の基本構造と位置、機能の概要について説明できる。
5. 全身の動脈と静脈の走行と血液供給、リンパ管の走行の概要を説明できる。
6. 作業療法に必要な神経系、脈管系の知識を説明できる。

《成績評価の方法》

期末筆記試験 90%，復習テスト 10%。復習テストは、前週に予告の上、講義時間中に複数回実施する。再試験は、期末筆記試験の成績不振者を対象として行う。

《テキスト》

平田幸男 訳：『解剖学アトラス』原著第10版、文光堂、2012. ¥11,000.

《参考図書》

渡辺正仁 監：『PT・OT・STのための解剖学』、廣川書店、2013. ¥6,380.

野村 嵩 編：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野解剖学』、医学書院、2020. ¥6,600.

《学生の留意点》

新しい概念や用語が非常に多いので、講義ごとの復習が重要。質問は電子メール [akudo@ks.kyorin-u.ac.jp] にて隨時受け付ける。

《実務経験のある教員による科目》

・解剖学教室の外来講師による神経系、脈管系を講義形式で実施する。実務経験のある作業療法士（河野）により、神経系、脈管系の知識を整理する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	末梢神経系（宮東）	脳神経5, 7（顔面の感覚と運動の制御）
2	末梢神経系（宮東）	脳神経8, 9（内耳神経、舌咽神経）
3	末梢神経系（宮東）	脳神経10～12（迷走神経、副神経、舌下神経）
4	末梢神経系（宮東）	脊髄と脊髄神経、デルマトーム、脊髄神経後枝、頸神経叢
5	末梢神経系（宮東）	腕神経叢と上肢の神経
6	末梢神経系（宮東）	腰神経叢、仙骨神経叢と下肢の神経
7	末梢神経系（宮東）	自律神経系 交感神経と副交感神経
8	脈管系総論（宮東）	循環器系概論 血液循環とリンパ管
9	脈管系（宮東）	心臓 心筋、弁、血管、刺激伝導系、心臓の位置
10	脈管系（宮東）	脈管系総論 血管の構造、動脈、静脈、毛細血管
11	脈管系（宮東）	大動脈、大静脈とその直接枝
12	脈管系（宮東）	局所解剖学からみた血管 頭頸部、上肢
13	脈管系（宮東）	局所解剖学からみた血管 体幹、下肢
14	脈管系（宮東）	脳の血管系、腹腔内臓と門脈系
15	脈管系（宮東）	胎生期の血液循環、リンパ系の概要、理学療法に必要な解剖学（聴診や血管・神経触察など）

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I a				
担当者氏名	渡辺 圭一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるため、「膜電位の発生機序」、「神経細胞の働き」、「体内での情報伝達機能」、「身体を動かす際の中枢神経の働き(生理)及び末梢神経と効果器(筋)の働き」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《目標行動(SBO)》

1. 神経筋機能について電気特性と物質特性から説明できる。
2. 筋の機能について電気特性と物質特性から説明できる。
3. 身体を動かす際の中枢神経の働き(生理)について説明できる。
4. 身体を動かす際の末梢神経と効果器(筋)の働き(生理)について関係づけることができる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，実習レポート30%

《テキスト》

大地 隆男：『生理学テキスト 第8版』、文光堂、2017年

《参考図書》

適宜紹介

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけて、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	概論	生理学概論、神経生理学概論
2	細胞機能の基礎	細胞の環境、構造・構造・機能調節
3	細胞機能の基礎②	細胞膜を通過する物質移動
4	細胞機能の基礎③	細胞膜を通過する物質移動
5	活動電位、イオンチャネル	膜電位、興奮発生と膜電流、イオンチャネルの機能と構造
6	神経の基本・興奮伝導について	神経線維の構造、跳躍伝導、興奮伝導の特徴(興奮伝導の3原則)、神経線維の種類
7	骨格筋について	筋の基本的機能、筋節(サルコメア)、筋フィラメント(アクチン、ミオシンについて)、調節タンパク質(トロポニン、トロポミオシンについて)
8	骨格筋について(その2)	筋小胞体とT管(横行小管)、Ca ²⁺ による筋収縮の開始(筋の収縮)、等尺性収縮と等張性収縮、筋収縮の基本の型、神経支配比、筋収縮のエネルギー
9	興奮の伝達と抑制	興奮の伝達と抑制、シナプスについて、神経筋伝達、神経筋接合部の伝達
10	自律神経系①	自律神経系との構成と作用、自律神経系の受容体①
11	自律神経系②	自律神経系の受容体②
12	運動系①	脊髄について、脳幹について
13	運動系②	小脳について、大脳基底核について①
14	運動系③	大脳基底核について②、
15	運動系④	運動系①～③までまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 I b				
担当者氏名	渡辺 圭一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

正常な生体機能がどのような機序で発現し、維持されているかについて理解を深めるために「感覚機能および脳の統合機能が関与する生命機能」について学ぶ。また、基本的なリハビリテーション医学の解釈に必要な基礎的知識を修得する。

《テキスト》

大地 隆男：『生理学テキスト 第8版』、文光堂、2017年

《参考図書》

適宜紹介

《目標行動(SBO)》

1. 感覚機能の点からヒトの生命機能を説明できる。
2. 脳の統合機能の点から人の生命機能を説明できる。

《学生の留意点》

授業時間のみでは理解は深まりません。自分に適した自己学習方法を見つけて、積極的に予習・復習を行う習慣を身につけましょう。生理学は解剖学とならんで医療従事者にとって必須の科目であり、臨床医学を学ぶ上での土台となります。また国家試験でも幅広く深い知識が問われます。そのことを意識して授業に臨んで下さい。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，小テスト30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における臨床検査技師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	感覚生理学総論	感覚系神経システムの理解
2	体性感覚①	感覚の強度、体性感覚と受容器、体性感覚の伝導路・中継核①
3	体性感覚②	体性感覚の伝導路・中継核②、大脳皮質の体性感覚野、痛覚、痒み
4	味覚、嗅覚	味覚、(味覚系、満腹、摂食中枢、嚥下) 嗅覚
5	聴覚	音の性質と聽力、伝音機構、内耳の音受容、聴覚の中枢
6	前庭感覺	前庭器官の構造と機能、前庭系の神経回路
7	視覚①	眼球の光学系、網膜の光受容、視覚の中中枢神経機序
8	視覚②	感覚としての視覚、眼球運動、演習
9	感覚器	感覚器(1~8回)のまとめ
10	脳の統合機能①	大脳皮質の構造と機能
11	脳の統合機能②	大脳辺縁系と視床下部
12	脳の統合機能③	脳の情動、行動を調節する伝達物質、脳波①
13	脳の統合機能④	脳波②、演習(脳波について)、覚醒と睡眠
14	脳の統合機能⑤	学習と記憶
15	脳の統合機能⑥	脳の統合機能(10~14回)のまとめ

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 IIa				
担当者氏名	廣瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GLO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』、文光堂、2017

《参考図書》

佐藤昭大他：『人体の構造と機能』、医歯薬出版、2015

《目標行動(SBO)》

1. 体液、血液の役割と機序を説明できる。□心臓、血管の循環系の役割と機序を説明できる。□ 3. 生体防御機構免疫系の役割と機序を説明できる。□ 4. 呼吸・酸塩基平衡の役割と機序を説明できる。□ 5. 体温調節と生体リズムの役割と機序を説明できる。□

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。臨床医学に貢献できるように、高度な医学知識、深い考察力と高い生命倫理観を目指しましょう。

《成績評価の方法》

期末試験100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における獣医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	体液	生命現象の本態、ホメオスタシス、体液の役割、体液の組成、ミネラルの働き
2	体液	水分の生理機能、体液量の調節、脱水、浮腫、カルシウムの吸収と代謝
3	血液	血液の成分と機能、血液の物理化学的特性、血液の成分、造血と造血因子
4	血液	赤血球の形状と機能、赤血球の新生と破壊、ヘモグロビンの働き、貧血
5	血液	白血球、血小板、血漿の形状と機能、血液凝固作用、血小板血栓、二次血液凝固
6	血液	ABO式血液型、RH式血液型、赤血球の凝集反応、凝集原（抗原）凝集素（抗体）
7	免疫	非特異的防御機構、特異的防御機構、免疫機構、リンパの働き、アレルギー
8	循環	体循環、肺循環、心臓の構造と機能、心筋の特性、刺激伝導系
9	心臓	心周期、心音、心拍数の調節、心臓の神経支配、心筋の電気現象と心電図
10	血管	動脈・静脈・毛細血管の特徴、血管の自律神経、冠循環、脳循環、腹腔内循環
11	血管	血圧の調節要因、局所性調節、ホルモン調節、リンパ管の構造と機能
12	呼吸	換気の仕組み、気道、肺の構造と機能、呼吸筋と呼吸運動、肺胞換気量
13	呼吸	肺におけるガス交換、酸素・二酸化炭素の運搬、呼吸による体液の酸塩基平衡
14	呼吸	呼吸に影響を与える因子、呼吸調節作用、呼吸中枢、特殊環境の呼吸への影響
15	体温	体温の調節、体熱の産生、基礎代謝量、体熱の放散、体温調節中枢、日内変動

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	生理学 II b				
担当者氏名	広瀬 智道				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GO)》

生理学は臨床医学各分野の基幹となる学問領域である。生理学は人体の正常な恒常性の機序及び機能的意義について理解を深めるために、人体の各種臓器の機能、役割について学び、合目的性として生体恒常性の機序を理解するもので、臨床医学への出発点となるものである。

《テキスト》

大地 陸男：『生理学テキスト 第8版』、文光堂、2017

《参考図書》

佐藤昭大他：『人体の構造と機能』、医薬山版、2015

《目標行動(SBO)》

1. 消化・吸収の役割とその機序を説明できる。
2. 栄養とエネルギーの役割とその機序を説明できる。
3. 泌尿器系の役割とその機序を説明できる。
4. 内分泌の役割とその機序を説明できる。
5. 生殖器系の役割とその機序を説明できる。
6. 成長と老化の生理作用とその機序を説明できる。

《学生の留意点》

今話題の最新医学や健康情報について、生理学的知識で精査してみましょう。臨床医学と生理学をより身近なものとして理解を深めることができます。

臨床医学に貢献できるように、高度な医学知識、深い考察力と高い生命倫理観を目指しましょう。□

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における獣医師としての実務経験を活かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	復習	前期講義内容の再確認
2	消化	口腔内消化、咀嚼・嚥下、唾液による消化、胃内消化、消化液の分泌調節作用
3	消化	小腸の構造と機能、小腸壁の構造、小腸の運動、小腸における消化
4	吸収	栄養素の分解と吸収、肝臓の構造と機能、脾臓の構造と機能、胆囊・胆道の機能
5	排便	大腸の構造と機能、大腸の運動と分泌、胃大腸反射、排便中枢、肛門括約筋の作用
6	代謝	物質代謝、炭水化物代謝、脂質代謝、タンパク代謝、核酸代謝、ビタミン代謝
7	腎臓	腎臓の構造と機能、ネフロンの構造、糸球体濾過、尿細管の働き、再吸収と分泌
8	腎臓	腎機能の測定、腎血流量、腎血漿流量と糸球体濾過量、腎クリアランス
9	排尿	尿管・膀胱・尿道の構造と機能、膀胱と尿道の神経支配、蓄尿、排尿反射
10	内分泌	ホルモンの化学的性質、ホルモンの受容器、ホルモンの機序、ホルモンの分泌調整
11	内分泌	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、下垂体中葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン
12	内分泌	甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎皮質・髓質ホルモン
13	生殖	排卵、月経、妊娠のホルモン、精巣・精巣上体の構造と機能、勃起、射精
14	老化	細胞の寿命と再生、生理的老化の特徴、身体機能の加齢変化、脳死、QOL、死の三微候
15	復習	後期講義内容の再確認

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	人間発達学				
担当者氏名	松本 実祐				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GLO)》

対象者の発達過程を考慮しながら対応できるようになるために、人の生得的な能力を知り、また代表的な領域ごとの各発達段階における特徴を学ぶ。

《テキスト》

授業の中で資料を配布します

《参考図書》

授業の中で資料を配布します

《目標行動(SBO)》

1. 人の発達段階の特徴について各領域に分け説明できる
2. 発達障害について説明できる
3. 各ライフステージにおける発達の特徴について説明できる

《学生の留意点》

積極的に授業に参加してください。

《成績評価の方法》

期末試験 100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は臨床心理士が担当し、その実務経験を活かした科目となっています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 生涯発達	オリエンテーション、生涯発達
2	発達課題	発達課題
3	運動の発達	運動の発達
4	言語・感情	言語・感情
5	知覚・記憶	知覚・記憶
6	学習	学習
7	認知 ピアジェの認知発達理論	認知 ピアジェの認知発達理論
8	発達障害①	発達障害①
9	発達障害②	発達障害②
10	発達を見立てる	発達を見立てる
11	段階理論	フロイトの心理的発達段階・マズローの欲求階層説・エリクソンの心理社会的発達段階理論
12	愛着	愛着
13	社会で生きるということ①	乳幼児期～児童・青年期
14	社会で生きるということ②	壮年・中年期
15	社会で生きるということ③	老年期

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床心理学				
担当者氏名	杉村 タ				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

対象者の心理的特徴や心的作用を考慮しながら実際場面で対応できるようになるために、臨床心理学の基本的理論、検査法、心理療法などを学ぶ。

《テキスト》

特になし

《参考図書》

授業の中でその都度紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方を説明できる。
2. 代表的な心理検査の種類を列挙、その特徴と内容について説明し、実施できる。
3. 代表的な心理療法について例挙し、その特徴と内容について説明できる。

《学生の留意点》

実際にさまざまな心理検査を実施したり、さまざまな心理療法の基礎を体験してもらったりします。
積極的な授業参加を期待します

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は臨床心理士が担当し、その実務経験を当該科目に生かした授業となっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方	臨床心理学の定義と対象、基本的な考え方
2	心理アセスメント	面接法、行動観察法、心理検査法
3	心理検査法①	性格検査（質問紙法）
4	心理検査法②	性格検査（投影法）
5	心理検査法③	性格検査（作業検査法）
6	心理検査法④	知能検査（ウェクスター式、ビネー式）
7	心理療法①	概論
8	心理療法②	精神分析療法
9	心理療法③	クライエント中心療法
10	心理療法④	行動療法、認知行動療法
11	心理療法⑤	自律訓練法
12	心理療法⑥	その他の心理療法
13	ライフサイクルと心理的問題	ライフサイクルと心理的問題、障害者・高齢者の心理、障害の受容、その他
14	ストレスマネイジメント	ストレスマネイジメント
15	まとめ	まとめ

《専門基礎分野 保健医療福祉とリハビリテーションの理念》

科目名	リハビリテーション概論				
担当者氏名	山田 千鶴子、関 勝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		<input type="radio"/> DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 <input type="radio"/> DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 <input type="radio"/> DP2- に育つためのリハビリテーションに関する基礎的な知識を身につける。 <input type="radio"/> DP2- に育つためのリハビリテーション専門職として治療・支援に関する知識を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

利用者の充実した生活を創造するセラピストとして、多職種と連携できるようになるために必要となる基礎的な知識と考え方を学ぶ

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. リハビリテーション歴史と理念を説明できる
2. リハビリテーションチームにおけるPTの役割を説明できる
3. 利用者の生活の質向上のために何が必要か具体的に考えられる
4. 多職種と連携するために必要な行動をとることができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験 50% 課題（レポート・ミニッツペーパー・自己評価） 50%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における医師・理学療法士・作業療法士としての実務経験を、専門分野の観点から授業内容に生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容	
1	オリエンテーション	本コースの目的・目標、内容	〔小島 肇〕
2	リハビリテーションの理念と社会医学技術学院	社会医学技術学院創設者の目指したリハビリテーションとは	〔山田千鶴子〕
3	利用者中心のリハビリテーション1	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
4	利用者中心のリハビリテーション2	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
5	利用者中心のリハビリテーション3	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
6	利用者中心のリハビリテーション4	利用者中心のリハビリテーションとは 事例検討	〔山田千鶴子〕
7	専門職に求められるもの	チームにおける理学療法士・作業療法士の役割と責任	〔浅沼辰志〕
8	障害体験 1	利用者の生活を考える 障害体験 1	〔OT、 PT〕
9	障害体験 2	利用者の生活を考える 障害体験 2	〔OT、 PT〕
10	リハビリテーションの歴史と理念	定義・対称・医療と介護の区分	〔関 勝〕
11	リハビリテーションチーム	専門職の役割とチームアプローチ	〔関 勝〕
12	医学的リハビリテーション I	リハビリテーションにおける評価とその意義	〔関 勝〕
13	医学的リハビリテーション II	機能予後と短期・長期ゴール設定	〔関 勝〕
14	医学的リハビリテーション III	病期別リハビリテーションと治療の基本概念	〔関 勝〕
15	地域リハビリテーション	医療と福祉の連携など	〔関 勝〕

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法概論				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			<input type="radio"/> DP2- に育つために必要な臨床神経学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。 <input type="radio"/> DP2- に育つために必要な整形外科学の主な疾患概念・病態・整形外科学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。 <input type="radio"/> DP2- に育つために必要な整形外科学の主な疾患のリハビリテーションについて基礎的知識を身につける。 <input type="radio"/> DP2- に育つため、理学療法の基礎技術として主要な骨指標や筋について触知する能力を身につける。		

《一般教育目標(GIO)》

望ましい理学療法士像を探求するために、理学療法の概要や評価・治療という一連の流れを理解し、医療従事者として必要な知識および職業倫理を身につける

《テキスト》

講義（グループワーク含む）

《参考図書》

必要に応じて授業中にプリントを配布する

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法とは何か、その概要を説明することができる
2. 4年間の養成課程における学習の概要を理解し、自分が目指す理学療法士像を言葉で表現できる
3. 医療の中で、医療以外の中で理学療法士の役割を理解し、説明することができる
4. 理学療法士としてふさわしい態度を述べることができる

《学生の留意点》

理学療法とはいからなる専門職なのか、これから4年間にわたる学習が何につながっていくのかを理学療法に関わる題材を通して考えてもらう時間となります。また、いくつかの学習方法を提示しますので積極的な参加を期待します。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業オリエンテーション
2	医療・福祉現場について	人間関係構築 専門職種について
3	理学療法の歴史	歴史的背景から学ぶこと
4	理学療法士の養成	カリキュラムについて
5	理学療法士に必要な能力	コミュニケーション能力 問題解決能力
6	理学療法士の役割とは	望まれる姿 期待される役割
7	医療従事者としての倫理	説明能力 承認確認 ハラスメント
8	医療におけるリスク管理	医療事故の要因
9	理学療法の流れ①	情報収集と評価、他職種連携
10	理学療法の流れ②	運動療法、物理療法、肢装具療法、ADL そして再評価
11	理学療法士が扱う機器	検査機器 治療機器 補助機器
12	理学療法士が関わる分野①	整形外科系運動器疾患
13	理学療法士が関わる分野②	脳神経、神経内科系疾患
14	理学療法士が関わる分野③	地域での関わり がん・終末期
15	理学療法士が関わる分野④	産業、スポーツ

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習 I				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

臨床見学実習の目標を達成するために、社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、社会人・医療人としての立ち振る舞い、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、体得できる。更に臨床見学実習を振り返り、各々の課題を見つけることができ、地域実習・検査測定実習までに学習すべき内容と学習プランを挙げられる。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 社会医学技術学院の学生である意味を説明できる。
2. 医療人としてのマナー、医療安全について説明できる。
3. コロナ禍での臨床実習を遂行するために、標準予防策を理解し、正しい手洗い、消毒を実行できる。
4. 臨床見学実習を遂行するための心構えができる。
5. 臨床見学実習の目的を述べることができる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。

《成績評価の方法》

提出課題 100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	実習に向けての準備①	実習で求められる事 社会人として、学生としてのマナー、接遇・態度
2	実習に向けての準備②	積極性、意欲的な態度を考える
3	実習に向けての準備③	感染の種類と対応について、標準予防策
4	実習に向けての準備④	標準予防策 演習(手洗い、消毒、マスクの外し方)
5	実習に向けての準備⑤	個人情報の保護 医療安全、危険予知トレーニング
6	実習に向けての準備⑥	車椅子の介助方法
7	実習の予定 見学実習の目的・目標	全実習と見学実習との関係、見学実習の目的と目標
8	実習の予定② 見学実習の進め方	見学実習での成果物、求められる事
9	実習で求められること ストレス対処法①	実際に話を聞いてみよう 実習中のストレスとその対処法
10	ストレス対処法②	実習中のストレスとその対処法 シェアード・ディシジョン・メイキング
11	実習の振り返り①	見学した内容のまとめ、感じたことのまとめと共有
12	実習の振り返り②	実習での反省点、今後の実習で求められる事を考える
13	実習の振り返り③	今後の実習に向けての学内での過ごし方、問題解決方法
14	実習で求められる知識の整理・定着①	解剖学の知識を整理する
15	実習で求められる知識の整理・定着②	生理学の知識を整理する

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	フィジカルアセスメント				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

対象者に応じたフィジカルアセスメント（視診・触診・聴診・打診）や各検査測定（血圧・脈拍測定）が自ら実践できるようになるために、解剖生理での裏付けや結果の解釈を系統的に学習する。

《テキスト》

工藤慎太郎：機能解剖と触診、羊土社、2019.

《参考図書》

運動療法のための機能解剖学的触診技術（上肢・下肢）

《目標行動(SBO)》

1. 解剖・生理学の知識を実技結果と結びつけることができる。
2. 対象者に対して視診を行い、考察ができる。
3. 対象者に対して触診を行い、考察ができる。
4. 対象者に対して聴診を行い、考察ができる。
5. 基本的なバイタルチェックを実施できる。

《学生の留意点》

講義前に実技のできる服装に着替え、必要物品を準備すること。

積極的に参加し技術習得に努めること（私語・スマートフォン操作等、講義・技術習得の妨げとなる行為があった場合は欠席扱いとし、退室を命ずることがある）。知識面・実技の復習を必ず行うこと。

《成績評価の方法》

実技試験 70%
筆記試験 30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション・バイタルサイン①	オリエンテーション、バイタルサインとは（視診・触診・聴診・血圧・脈拍）。
2	バイタルサイン②	実技（脈拍、血圧測定）
3	触診（骨）①	実技（ランドマークの触診）
4	触診（骨）②	実技（ランドマークの触診）
5	触診（骨）③	実技（ランドマークの触診）
6	身体測定①	実技（四肢長測定）
7	触診（筋）①	上肢の筋
8	触診（筋）②	上肢の筋
9	触診（筋）③	上肢の筋
10	触診（筋）④	下肢の筋
11	触診（筋）⑤	下肢の筋
12	触診（筋）⑥	下肢の筋
13	触診（筋）⑦	体幹の筋
14	触診（筋）⑧	頸部・頭部の筋
15	身体測定②	実技（周径測定）

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	生活環境支援理学療法学				
担当者氏名	山本 千夏				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	1年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

自立支援の為に、車椅子・福祉機器・住宅改造・周辺環境を含めた内容を理解し、すべての人が生活する上で必要なツール、援助を理学療法の観点から学ぶ。

《テキスト》

国際福祉機器展H.C.R.2021 福祉機器 選び方・使い方 副読本
基本動作編・住宅改修編・自立支援編

《参考図書》

標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学第5版 医学書院

《目標行動(SBO)》

- 車椅子の使用目的・機能を説明でき、操作方法を指導できる。
- 福祉機器の目的・機能を説明でき操作方法を指導できる。
- 車椅子のシーティングシステムを対象者に適用させる経験をする。
- 住環境および自宅周辺環境について説明することができる。

《学生の留意点》

- 人の支援をする専門職としての考えを身に着けてほしい。
- 校外授業においては社会人として適切な言動を身に着けてほしい。
- 校外見学時など授業内容によっては通常の授業時間帯、授業時間（90分）と異なることもある。

《成績評価の方法》

授業内のグループワーク、校外施設見学、体験についての提出物課題100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	福祉機器を知る	オリエンテーション 福祉器具とは何か
2	介助	食事介助・更衣介助・排泄介助などを知る
3	リフト・ベッド	持ち上げない介護
4	車椅子について	②屋外③玄関④廊下⑤階段⑥居室⑦トイレ⑧浴室
5	車椅子について（2）	①車椅子の名称②処方③操作方法・フィッティングなど
6	屋外評価について	公共交通機関の調査
7	福祉用具について	①必要性の判断②プランニング③実施・効果確認④モニタリング
8	国立リハビリテーションセンター見学	（事前学習） 障害者の自立支援を考える
9	国立リハビリテーションセンター見学	グループワーク、発表
10	家屋評価について	②屋外③玄関④廊下⑤階段⑥居室⑦トイレ⑧浴室
11	アビリティーズ見学（説明）	福祉・介護用具取扱業者アビリティーズ見学に関するオリエンテーション
12	アビリティーズ見学（参加）	アビリティーズ（吉祥寺）見学
13	アビリティーズ見学（振り返り）	福祉・介護用具取扱業者アビリティーズ見学後の振り返り
14	住宅改修（1）	自宅を振り返りバリアを検討する（グループディスカッション）
15	住宅改修（2）	まとめ

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床見学実習				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	実習	単位・回	1単位・0回	開講年次・開講期	1年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			<input type="radio"/> DP1- となるために本科目では他者に傾聴できる力を身につける。 <input type="radio"/> DP1- となるために人の話を聴き、正しく理解するコミュニケーション力を身につける。 <input type="radio"/> DP2- に育つための専門職の仕事内容に関する知識を身につける。 <input type="radio"/> DP2- に育つための専門職の治療・支援に関する知識を身につける。		

《一般教育目標(GIO)》

理学療法士としての役割を知り、今後の学習意欲を高めるために、臨床現場の見学実習を通じて理学療法士の専門性を学ぶ。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 実習施設の特徴や役割を説明できる。
2. 実習施設のリハビリテーション全体における位置づけ、理学療法・作業療法部門の組織、役割を説明できる。
3. 関連他部門（職種）の役割と連携について説明できる。
4. 基本的なビデオセミナーを実施できる。
5. 医療安全、実習施設規則、個人情報保護を遵守できる。
6. 実習で得た知識や内容を臨床実習Ⅱに向けて共有出来る。

《学生の留意点》

何を見学するのかを明確にし、理学療法士と対象者の関わり方がどのように行われていたのか、対象者の困りごとは何なのかを見学していくこと、また、その上であいさつや質問などを自ら積極的にできるように心がけること。

《成績評価の方法》

指導報告書・提出課題・実習後セミナーを総合的に勘案して評価する。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士が、その実務経験を活かした科目となっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	施設の特徴、理学療法士の役割を知る。	5日間の臨床見学実習
2	発表・共有	実習後セミナー
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学 I				
担当者氏名	小宮山 一樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。 				

《一般教育目標(GIO)》

理学療法治療技術論への学習の基礎とするために、上肢・体幹の機能解剖及び、呼吸、循環、代謝の基本的知識を習得する。

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』、医歯薬出版、2012.
平田幸男訳：『解剖学アトラス』第10版、文光堂、2012.

《参考図書》

嶋田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』、医歯薬出版、2012.
塙田悦二訳：『カバンジー機能解剖学Ⅱ』、医歯薬出版、2010.
勝田茂編著：『入門運動生理学』、杏林書院、2015.

《目標行動(SBO)》

1. 関節構造や筋活動の特性を踏まえて身体運動が説明ができる。
2. 上肢・体幹の構造と運動が説明できる。
3. 体幹、肩関節、肘関節、手関節の運動学的特徴を説明できる。
4. 運動学としての呼吸・循環・代謝の仕組みを説明できる

《学生の留意点》

解剖、生理学に基づいた専門的内容が多くなる。解剖学各回の復習を欠かさず授業に臨むこと、教材室にある骨標本・筋模型を利用して、具体的に理解することにつとめること、毎回教材備品を授業開始までに準備すること必要に応じて自らの身体を実際に動かして積極的に学習すること。

《成績評価の方法》

期末試験 筆記100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を機能解剖の知識獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	運動学概要、筋骨格系における力について
2	骨学総論	人体関節の基本構造と機能について、運動の軸について、副運動について、
3	骨学総論	基本運動方向表現について
4	筋学総論	筋収縮の様式と運動について
5	筋学総論	張力-長さ曲線と運動
6	脊柱の機能解剖	脊柱の構造と各部位の運動学的特徴について
7	頸部の機能解剖	軸椎関節および環椎後頭関節の運動について、頸部の運動と筋活動について
8	胸腰部の機能解剖	姿勢と椎間板内圧について、胸椎、腰椎の関節運動
9	呼吸・循環の運動学	胸式呼吸、腹式呼吸の仕組み 循環動態と運動の関連性
10	肩・肩甲帯の機能解剖	肩関節複合体について、フォースカップル作用について、肩甲上腕リズムについて
11	肩・肩甲帯の機能解剖	肩関節の安定性について、機能的肢位について、ゼロポジションについて
12	肘・前腕の機能解剖	肘関節複合体について、生理的外反について
13	肘・前腕の機能解剖	回内・回外の軸、前腕骨間膜の役割について
14	手・手指の機能解剖	手関節複合体について、手関節の運動について、指背腱膜と伸筋について
15	運動と代謝	運動とエネルギー代謝について

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学II				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

理学療法評価や治療技術論への学習の基礎とするために、理学療法士に最低限必要な「下部体幹から足部までの運動学」と「運動の中枢神経機構」を学ぶ。

《テキスト》

中村隆一他：『基礎運動学 第6版補訂』、医歯薬出版、2017年。
平田幸男訳：『解剖学アトラス』、文光堂、2012年。

《参考図書》

鷲田智明他訳：『筋骨格系のキネシオロジー』、医歯薬出版、2018年。
塩田悦二訳：『カパンジー機能解剖学II下肢』、医歯薬出版、2019年。

《目標行動(SBO)》

1. 骨盤の構造と運動を説明することができる
2. 股・膝・足関節の構造と運動を説明することができる
3. 関節に係る力と安定化機構を説明することができる
4. 運動の中枢神経機構について説明できる
5. 代表的な運動制御理論について説明できる

《学生の留意点》

基幹科目の一つです。予習・復習を十分にしながら確実に理解を進めてください。

《成績評価の方法》

期末試験（100%）

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かし「理学療法評価や治療技術論への学習の基礎となるような運動学事項の理解」を目指す

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	骨盤の構造と運動表現	コースオリエンテーション／骨盤の剖学的理解と運動方向表現
2	骨盤と姿勢(上行性運動連鎖)	骨盤の運動と姿勢との関係
3	骨盤と姿勢(下行性運動連鎖)	骨盤の運動と股関節との関係
4	股関節の構造と機能_1	股関節の解剖学的理解と重要な角度
5	股関節の構造と機能_2	股関節の構造と機能／韌帯機構と筋作用
6	股関節の構造と機能_3	股関節の安定化機構
7	膝関節の構造と機能_1	膝関節の解剖学的理解と運動／韌帯機構と筋作用
8	膝関節の構造と機能_2	膝関節の静的安定化機構
9	膝関節の構造と機能_3	膝関節の動的安定化機構
10	足関節・足部の構造と機能_1	足関節足部の解剖学的理解と運動表現
11	足関節・足部の構造と機能_2	足関節足部に特有な関節軸と複合された運動の理解
12	足関節・足部の構造と機能_3	足関節足部の筋解剖学／足アーチの機能
13	運動の中枢神経機構_1	運動のプランニングからプログラミングそして実行まで
14	運動の中枢神経機構_2	運動のフィードフォワードとフィードバック制御機構
15	運動の中枢神経機構_3	運動制御理論／歩行の中枢／中枢パターン生成機構(CPG)

《専門基礎分野 人体の構造と機能および心身の発達》

科目名	運動学演習				
担当者氏名	沼尾 拓				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。 				

《一般教育目標(GIO)》

ヒトの運動を運動学的に理解するために、歩行を基に運動学の知識の応用を図る

《テキスト》

畠中泰彦：『姿勢・動作・歩行分析（PT・OTビジュアルテキスト）』。羊土社。2015年。

《参考図書》

中村隆一他：『基礎運動学第6版』。医歯薬出版株式会社。2003年。

《目標行動(SBO)》

- ・運動の際の重心移動を説明できる。
- ・重心移動の際の床反力を説明できる。
- ・床反力を得るための関節運動を説明できる。
- ・関節を動かすための筋収縮を説明できる。

《学生の留意点》

各单元で理解した内容を文章で説明する課題を課します。
しっかりとメモを取りながら授業に参加してください。
また、歩行の測定後にSBOに沿った考察を書いてもらいます。

《成績評価の方法》

課題50%，筆記試験50%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション	重力のある世界で運動するための重心・床反力・関節運動・筋活動の関係（考え方、相分け）
2	歩行の基礎知識	用語、歩行相
3	歩行時の重心移動	左右・上下への重心移動 (沼尾)
4	歩行時の重心移動	左右・上下への重心移動 (沼尾)
5	歩行時の重心移動	左右・上下への重心移動 (沼尾)
6	歩行時の重心移動	左右・上下への重心移動 (沼尾)
7	歩行時の床反力	前後・左右・上下分力
8	歩行時の床反力	前後・左右・上下分力
9	APA	足関節・膝関節・股関節・肩関節の関節運動 (歩行測定1/3) (佐々木)
10	APA	足関節・膝関節・股関節・肩関節の関節運動 (歩行測定1/3) (佐々木)
11	歩行時の関節運動	足関節・膝関節の筋活動 (歩行測定1/3)
12	歩行時の関節運動	足関節・膝関節の筋活動 (歩行測定1/3)
13	歩行時の筋活動	股関節の筋活動 (歩行測定1/3) (小宮山)
14	歩行時の筋活動	股関節の筋活動 (歩行測定1/3) (小宮山)
15	まとめ	(沼尾)

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	病理学概論				
担当者氏名	堀田 紗子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○ DP2-に育つために病理学の主な疾患の病態を組織像と共に基礎的知識を身につける。				

《一般教育目標(GO)》

様々な疾患の特徴や原因について科学的な理解を深めるために、最低限必要な基本的医学用語と医学知識を身に着け、主な疾患の病態を組織像とともに学ぶ。

《テキスト》

指定なし。毎回授業内容に沿ったプリントを配布する。

《参考図書》

指定なし。

《目標行動(SBO)》

《学生の留意点》

病理学とは何か、病理学を学ぶ意義は何かについて、それぞれが考えてほしい。講義内容の理解を深めるため、復習は確実に行ってください。

《成績評価の方法》

筆記試験100%（期末試験）

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	病理学総論（1）	病理学とは何か 最近のトピックス
2	病理学総論（2）	細胞障害と適応、変性、代謝障害
3	病理学総論（3）	炎症
4	病理学総論（4）	免疫、膠原病
5	病理学総論（5）	感染症
6	病理学総論（6）	腫瘍
7	病理学各論（1）	呼吸器系の疾患1
8	病理学各論（1）	呼吸器系の疾患2
9	病理学各論（2）	消化器系の疾患1
10	病理学各論（2）	消化器系の疾患2
11	病理学各論（3）	生殖器系の疾患1
12	病理学各論（3）	生殖器系の疾患2
13	病理学各論（4）	脳・神経系の疾患1
14	病理学各論（4）	脳・神経系の疾患2
15	まとめ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学				
担当者氏名	栗崎 博司、板東 充秋				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2に育つために必要な臨床神経学の主な疾患概念、病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

作業療法へ展開するために、神經障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ

《テキスト》

江藤文夫 編：『神經内科学テキスト』、南江堂、2017

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 神經内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神經内科領域の主な疾患についての診断について説明できる。
3. 神經内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる。
4. 神經内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神經内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	神經機能解剖／神經生理／診断総論（脳血管障害を含む）
2	〃	神經機能解剖／神經生理／診断総論（脳血管障害を含む）①
3	〃	神經薬理／治療総論／神經の成長・加齢
4	〃	神經薬理／治療総論／神經の成長・加齢
5	各論	変性疾患 パーキンソン症候群／認知症
6	〃	変性疾患 パーキンソン症候群／認知症
7	〃	高次脳機能障害
8	〃	高次脳機能障害
9	〃	高次脳機能障害（失語症を含む）
10	〃	高次脳機能障害（失語症を含む）
11	〃	意識障害／脳神経／運動の経路
12	〃	意識障害／脳神経／運動の経路
13	〃	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
14	〃	感覚の経路／運動失調／嚥下機能
15	症候学	錐体外路症状／自律神経／異常歩行

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床神経学				
担当者氏名	板東 充秋、栗崎 博司				
授業方法	講義・演習	単位・回	3単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つために必要な臨床神経学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

作業療法へ展開するために、神経障害を生じる主な疾患の疫学、病態、予後、症状、評価・検査、一般的治療について学ぶ

《テキスト》

江藤文夫 編：『神経内科学テキスト』。南江堂、2017

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 神経内科疾患の成因と分類について説明できる。
2. 神経内科領域の主な疾患についての診断について説明できる。
3. 神経内科領域の主な疾患についての評価、治療について説明できる。
4. 神経内科と関連する保健と福祉に関連する法律について説明できる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

期末試験（筆記試験）100%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における神経内科学医師としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	症候学	錐体外路症状／自律神経／異常歩行
2	//	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
3	//	血管障害 神経画像／正常圧水頭症／頭部外傷
4	//	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
5	//	筋萎縮性側索硬化症 (ALS) の基礎と 在宅におけるALS患者への支援
6	//	脳腫瘍／感染
7	//	脳腫瘍／感染
8	//	筋疾患／重症筋無力症
9	//	筋疾患／重症筋無力症
10	//	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
11	//	内科疾患に伴う神経症候／中毒／代謝疾患
12	//	脱髓疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
13	//	脱髓疾患／末梢神経疾患／自律神経障害
14	//	小児先天性疾患
15	//	小児先天性疾患

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学 I				
担当者氏名	複数外来講師				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> ①P2-に答つたために必要な整形外科学の主要な疾患概念・病態・整形外科学的検査・診断と治療・予後等における一般的知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

理学療法、作業療法に活かすために、整形外科学の主要な疾患概念、病態、神経学的検査、診断、治療そして予後等における一般的知識について修得する。

《テキスト》

医療情報科学研究所編：『病気がみえる Vol.11 運動器・整形外科』、メディックメディア、2017.

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 骨、軟部組織の修復と再生について理解できる。 2. 整形外科診断、特に画像診断について理解できる。 3. 主要な疾患・外傷の治療、特に手術療法について理解できる。

《学生の留意点》

身体構造（解剖）の問題を取り扱う臨床医学です。どのような領域においても対象者が有していることが多い、その症状・病態生理・評価（検査法）・整形外科治療の理解は、安全かつ効果的な理学療法、作業療法につながります。3人で分担し、順番が前後することがあります。

《成績評価の方法》

期末試験100%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	外傷 I	外傷総論
2	総論 I	診察、症候、検査
3	総論 II	治療
4	外傷 II	骨折、脱臼等
5	下肢の疾患 I	股関節・膝関節疾患
6	下肢の疾患 II	膝関節・足関節疾患
7	スポーツ外傷・障害	スポーツ外傷
8	体幹の疾患 I	頸椎疾患
9	体幹の疾患 II	胸椎・腰椎疾患
10	体幹の疾患 III	胸椎・腰椎疾患
11	上肢の疾患	肩関節・肘関節疾患等
12	末梢神経損傷、骨軟部腫瘍	末梢神経損傷、骨軟部腫瘍
13	脊髄腫瘍	脊髄腫瘍
14	リウマチ性疾患	関節リウマチ、脊椎関節炎等
15	骨系統疾患、代謝性疾患	軟骨無形成症、骨形成不全症、骨粗鬆症

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	整形外科学Ⅱ				
担当者氏名	沼尾 拓				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2に育つために必要な整形外科学の主な疾患のリハビリテーションについて基礎的知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

運動器系理学療法学を理解するために、整形外科学の主要な疾患に関するリハビリテーションについて習得する。

《テキスト》

特に指定なし

《参考図書》

市橋則明：『運動療法学 障害別アプローチの理論と実際』。文光堂、2014.

《目標行動(SBO)》

- 1) 整形外科リハビリテーションの概要を理解できる。
- 2) 解剖・関節運動を理解したうえで、運動器系理学療法の基本手技を模倣できる。

《学生の留意点》

- ・整形外科学の主要な疾患を理学療法の観点から学びます。
- ・理学療法の中核を占める運動療法のうち、基本的な手技を整形外科の主要な疾患を通して習得する科目です。

《成績評価の方法》

期末試験（実技）85%，課題（小テスト）15%。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	整形外科リハビリテーション総論	
2	組織の修復と再生	
3	足部関連疾患	理論・ストレッチ実技
4	足部関連疾患	関節モビライゼーション・筋力増強
5	膝関節関連疾患	理論・ストレッチ実技
6	膝関節関連疾患	関節モビライゼーション・筋力増強
7	股関節関連疾患	理論・ストレッチ実技
8	股関節関連疾患	関節モビライゼーション・筋力増強
9	体幹関連疾患	理論・ストレッチ実技
10	体幹関連疾患	関節モビライゼーション・筋力増強
11	肩関節関連疾患	理論・ストレッチ実技
12	肩関節関連疾患	関節モビライゼーション・筋力増強
13	肘関節関連疾患	理論・ストレッチ・関節モビライゼーション・筋力増強
14	手関連疾患	理論・ストレッチ・関節モビライゼーション・筋力増強
15	まとめ	

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学 I				
担当者氏名	岡崎 史子				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つために必要な臨床内科学の主な疾患概念・病態・内科学的検査・診断と治療・予後等における基礎知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

内科疾患の知識をもとに、作業療法に活かすために、主な内科疾患の病態、症状、疫学、予後、評価・検査、一般的な治療を知る。

《テキスト》

奈良歯他監修：『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学 第4版』。医学書院。2020

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 内科学で扱う疾患について説明できる
2. 主な循環器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
3. 主な代謝性疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
4. 主な呼吸器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
5. 主な消化器疾患を列挙でき、特徴について説明ができる
6. 感染症、腎疾患、膠原病の特徴について説明ができる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、複数の医師が担当し、その実務経験を授業内容の講義などにいかした授業となっています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	内科学総論	(岡崎史子 先生)
2	内科学各論	血液・内分泌疾患①(原田芳巳 先生)
3	"	血液・内分泌疾患②("
4	"	血液・内分泌疾患③("
5	"	循環器疾患①(杉山佳史 先生)
6	"	循環器疾患②("
7	"	循環器疾患③("
8	"	消化器疾患①(政木隆博 先生)
9	"	消化器疾患②("
10	"	呼吸器疾患①(岡崎史子 先生)
11	"	呼吸器疾患②("
12	"	感染症(関 正康 先生)
13	"	腎臓疾患(川村哲也 先生)
14	"	膠原病(木下牧子 先生)
15	総論	まとめ(岡崎史子 先生)

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床内科学Ⅱ				
担当者氏名	保崎 明, 遠藤 敏				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
○ DP2-に育つために必要な臨床内科学(老年学・小児科学の主な疾患概念・病態・神経学的検査・診断と治療・予後等における基礎知識を身につける。) ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

高齢期にある対象者を的確に理解するために、老化がもたらす生理学的变化や老年者の疾患の特徴について学ぶ。
理学療法へ展開するために、小児の生理・心理・疾病の特徴と小児保健に関する基本的な知識を学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

大村尉義編：『標準理学療法学・作業療法学 老年学第4版』、医学書院、2014

日本老年医学会編：『老年医学テキスト3版』、MEDICALVIEW、2013

《目標行動(SBO)》

【老年医学】1. 高齢者の特徴と医療・福祉政策が言える 2. 老化と加齢、老年症候群の特徴を言える 3. 高齢者の機能・生活評価の説明ができる 【小児科学】1. 先天異常について説明できる 2. 新生児の特徴について説明できる 3. 感染症、または予防接種の種類を列挙できる 4. 小児の発達過程を説明できる 5. 小児保健について説明できる 6. 循環器障害の種類と特徴について説明できる。

《学生の留意点》

老年の疾患でなく、高齢の生活者として考えるようにしてほしい。小児科学においては「こどもは大人の小型ではないので小児の身体的・心理的特徴、及び疾患の特徴をよく理解し、問題解決、治療指導において必要な技能、相応しい態度を身に付けるように学習に臨んでほしい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は遠藤敏（理学療法士）と保崎明（小児科医）が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	老年学とは	老年医学から老年学への発展
2	高齢化の問題	高齢社会の抱える諸問題とその対策
3	老化現象	加齢に伴う老化現象の状況
4	老年症候群	老年症候群と廃用症候群
5	高齢者の生理学的特徴1	高齢者の生理学的特徴（資格、聴覚、嗅覚、味覚、体性感覚などの感覚器）
6	高齢者の生理学的特徴2	高齢者の生理学的特徴（呼吸、心臓、腎臓、肝臓などの臓器）
7	フレイルとロコモティブ・シンドローム	フレイル、サルコペニア、ロコモティブ・シンドロームの理解
8	高齢者の主な疾患・認知症の理解	高齢者における、特に重要な疾患・認知症特有の症状の理解
9	高齢者の機能・生活評価	高齢者の機能・生活評価の検査項目とテストバッテリー
10	小児の疾病 先天異常	先天異常・新生児
11	〃	先天異常・新生児
12	小児の疾病 感染症	感染症
13	〃	感染症
14	小児の疾病と障害 保健	発達と小児保健・循環器障害
15	〃	発達と小児保健・循環器障害

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	リハビリテーション医学				
担当者氏名	関 勝				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つために必要なリハビリテーション医学の主な疾患概念・病態・検査・診断と治療・予防等における基礎知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

理学療法/作業療法に展開するために、リハビリテーション医学の概念と各障害に対する基本的原則を学ぶ。

《テキスト》

三上真弘：『リハビリテーション医学テキスト改訂第4版』、南江堂、2016。

《参考図書》

講義内で提示します。

《目標行動(SBO)》

1. 各障害の生じる病態・疫学・予後を記述できる。
2. 各障害の診断法・医学的治療を説明できる。
3. 各障害に対する病期に応じたリハビリテーションを説明できる。
4. 各障害の特徴を列挙できる。

《学生の留意点》

正しい医学知識を身につけ、臨床での応用を常に念頭に置いて勉強してほしい。

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は医師が担当し、その実務経験を授業内容に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	脳障害1	脳卒中・頭部外傷等の障害学
2	脳障害2	急性期のリハビリテーション
3	脳障害3	慢性期のリハビリテーション
4	脊髄損傷1	病態総論、診断法、合併症
5	脊髄損傷2	急性期のリハビリテーション
6	脊髄損傷3	慢性期のリハビリテーション
7	関節リウマチ1	疾患の概要・障害像、診断と評価その1
8	関節リウマチ2	診断と評価その2、リハビリテーション
9	神経・筋疾患1	パーキンソン病、脊髄小脳変性症
10	神経・筋疾患2	多発性硬化症、ALS、筋ジストロフィー症
11	骨・関節疾患	変形性関節症等
12	切断1	総論、切断と義肢
13	切断2	切断のリハビリテーション
14	循環器・呼吸器	心機能及び呼吸機能障害のリハビリテーション
15	小児リハ	小児のリハビリテーション、その他

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	社会医学				
担当者氏名	小林 規彦				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

医療職である療法士としてのプライマリヘルスケアを理解する
ために、社会医学の概要について学ぶ。

《テキスト》

『予防と産業の理学療法』、南江堂、2020年

《参考図書》

授業内に提示する

《目標行動(SBO)》

- ・社会医学の概要を説明できる。
- ・国際的な流れと国内の動きを理解できる。
- ・理学療法の関与を説明できる。

《学生の留意点》

グループワークへの積極的参加が望まれる。

※なお、状況に応じた対応をはかる必要性がある観点から、事前準備等の必要が生じた場合は指示するので留意する。

《成績評価の方法》

課題提出 100%

《実務経験のある教員による科目》

等科目は、実務経験ならびに当該分野専門教育経験のある講師が担当している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コースオリエンテーション	社会医学とは
2		社会環境と健康
3		疫学と予防医学
4		生活習慣と疾病
5		感染症対策
6		地域保健
7		産業保健
8		保健・医療・福祉と介護制度
9		国際保健
10		臨床研究と医の倫理
11		健康の社会的決定要因
12		社会医学とリハビリテーション
13		社会医学の中の理学療法 I
14		社会医学の中の理学療法 II
15		まとめ

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅱ				
担当者氏名	林 佑樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では模擬患者の思いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 <input type="radio"/> DP3-に育つために実習施設の理念と組織および運営について理解する。 <input type="radio"/> DP4-に育つためにプロフェッショナルリズムを考察する。			

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習Ⅰの目標を達成するために、社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、社会人・医療人としての立ち振る舞い、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、体得できる。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 社会医学技術学院の学生である意味を説明できる。
2. 医療人としてのマナー、医療安全について説明できる。
3. 地域領域の理学療法を経験する準備をする。
4. 検査測定を実際の患者さんに行う準備をする。
5. 臨床実習Ⅱを遂行するための心構えができる。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。検査測定技術、基本的な介助のスキルアップを目指します。実技は実習に則した服装で参加すること。

《成績評価の方法》

まとめ課題100%（指定用紙に各回の記録をし、次の授業時に提出すること、最終日は授業終了時に提出すること。）
オンデマンド授業になった場合には、課題の内容に不備があれば出席としないことがある。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業内容オリエンテーション、実習地について調べる。実習中の「記録」について 検査結果の記録・実習ノートなど、医療人のマナー
2	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
3	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
4	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
5	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
6	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
7	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
8	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
9	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
10	実習前実技確認	実習前実技試験
11	実習前実技確認	実習前実技試験
12	実習後セミナー	実習で得た情報共有（地域理学療法含む）
13	実習後セミナー	実習で得た情報共有（地域理学療法含む）
14	実習後セミナー（実技）	実習で得た情報共有（実技）
15	実習後セミナー（実技）	実習で得た情報共有（実技）

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="checkbox"/> DP2-に育つために理学療法評価学に必要な知識や技術を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

関節可動域測定・徒手筋力検査を実施するために徒手筋力検査の意味を理解し実施できる。

《テキスト》

1. 松澤正:『理学療法評価学 改訂第6版』:金原出版:2021
2. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著, 津山直一訳:『新・徒手筋力検査法原著第10版』. 協同医書出版社, 2020

《参考図書》

- 青木主悦:『ROMナビ』. 有限会社ラウンドフラット, 2013年。
中村利考:『標準整形外科学 第13版』:医学書院, 2016年。

《目標行動(SBO)》

1. 定義・目的・原則を説明できる。
2. 関節可動域測定时にゴニオメーターを使用し適切に測定できる。
3. 徒手筋力測定時の代償動作を抑制し適切に徒手抵抗を加えることができる。

《学生の留意点》

1. 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください。
2. 実技は動きやすい服装(触診が可能なようにTシャツ・短パン)に着替えてください。
3. 数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行ってください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	関節可動域測定	関節可動域測定総論:意義・目的・原則
2	関節可動域測定	関節可動域測定総論:意義・目的・原則
3	関節可動域測定	上肢・肩甲帯
4	関節可動域測定	上肢・肩甲帯□
5	関節可動域測定	上肢・肩甲帯□
6	関節可動域測定	上肢・肩甲帯□
7	関節可動域測定	上肢・肩甲帯・下肢□
8	関節可動域測定	下肢
9	関節可動域測定	下肢
10	関節可動域測定	下肢
11	関節可動域測定	下肢・頸部・体幹
12	関節可動域測定	頭部・体幹
13	関節可動域測定	手指・足趾・メジャーを使用した測定□
14	関節可動域測定□	手指・足趾・メジャーを使用した測定□
15	徒手筋力測定	徒手筋力測定:意義・目的・原則

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学 I				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	○ DP2-に育つために理学療法評価学に必要な知識や技術を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

関節可動域測定・徒手筋力検査を実施するために徒手筋力検査の意義を理解し実施できる。

《目標行動(SBO)》

1. 定義・目的・原則を説明できる。
2. 関節可動域測定时にゴニオメーターを使用し適切に測定できる。
3. 徒手筋力測定時の代償動作を抑制し適切に徒手抵抗を加えることができる。

《成績評価の方法》

筆記・実技によって評価を行う。それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%の両方に満たないものは再試験を課す。

《テキスト》

1. 松澤正:『理学療法評価学 改訂第6版』:金原出版:2021
2. Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著, 津川直一訳:『新・徒手筋力検査法原著第10版』. 協同医書出版社, 2020

《参考図書》

- 青木主悦:『ROMナビ』. 有限会社ラウンドフラット, 2013年。
中村利考:『標準整形外科学 第13版』:医学書院, 2016年。

《学生の留意点》

1. 解剖学・運動学の知識が前提となるので十分に復習をしてください。
2. 実技は動きやすい服装(触診が可能なようにTシャツ・短パン)に着替えてください。
3. 数多くの経験をするために、実技では様々な人と練習を行ってください。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の「理学療法評価演習の理解に向け検査測定とその解釈」に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	徒手筋力測定□	徒手筋力測定:意義・目的・原則
2	徒手筋力測定□	下肢
3	徒手筋力測定□	下肢
4	徒手筋力測定□	下肢
5	徒手筋力測定□	下肢
6	徒手筋力測定□	下肢・上肢
7	徒手筋力測定□	上肢
8	徒手筋力測定	上肢・肩甲帯
9	徒手筋力測定	上肢・肩甲帯
10	徒手筋力測定	上肢・肩甲帯
11	徒手筋力測定	上肢・肩甲帯
12	徒手筋力測定	頸部・体幹
13	徒手筋力測定	頸部・体幹
14	まとめ	日常生活と関節可動域・筋力の関係性について・まとめ
15	まとめ	日常生活と関節可動域・筋力の関係性について・まとめ

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱ				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を習得する。

《テキスト》

1. 松澤正:『理学療法評価学 改訂第6版』:金原出版:2021

《目標行動(SBO)》

1. 各々の検査の定義/目的/原則を説明できる。
2. 測定を実施する際に、適切なリエーションを実施できる。
3. 各々の検査の一般的な測定手順、注意点、リスクを説明できる。
4. 検査結果の記録方法、測定器具の使用方法を説明できる。
5. 神経学的検査と障害/疾患の関係、神経解剖/生理学的、背景を説明できる。

《成績評価の方法》

筆記・実技によって評価を行う。それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%の両方に満たないものは再試験を課す。

《参考図書》

鈴木則宏:『神経診察クローズアップ-正しい病巣診断のコツ改訂第3版』。メディカルビュー社。2015年

田崎義昭他著:「ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版」。南山堂。2016年

医療情報科学研究所:『病気がみえるvol.7脳・神経 第2版』。メディックメディア。2017年

《学生の留意点》

解剖学・運動学・生理学の知識が前提となるので十分復習しておくこと。

実技は動きやすい服装(Tシャツ・短パン)に着替えること、実際の対象者をイメージして実技練習に臨むこと。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	神経学的検査とは、麻痺の分類、中枢神経・末梢神経
2	総論	神経学的検査とは、麻痺の分類、中枢神経・末梢神経
3	意識障害	意識障害の診かた
4	意識障害	意識障害の診かた
5	知覚検査	知覚検査の意義、手順、注意事項、実技(触覚・痛覚・温度覚)
6	知覚検査	知覚検査の意義、手順、注意事項、実技(触覚・痛覚・温度覚)
7	知覚検査	知覚検査実技(深部覚、複合感觉)
8	知覚検査	知覚検査実技(深部覚、複合感觉)
9	反射検査	反射とは、深部腱反射、表在反射、病的反射
10	反射検査	反射とは、深部腱反射、表在反射、病的反射
11	反射検査	反射検査実技(深部腱反射、表在反射、病的反射)
12	反射検査	反射検査実技(深部腱反射、表在反射、病的反射)
13	筋緊張検査	筋緊張のメカニズム、筋萎縮、評価の方法
14	筋緊張検査	筋緊張のメカニズム、筋萎縮、評価の方法
15	筋緊張検査	筋緊張検査実技、筋萎縮評価実技

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅱ				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では模擬患者の想いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP1-となるために本科目ではアドバイスを受けたことを振り返り受け止め行動化することができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために理学療法評価学に評価技術を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として障害像の診方を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

神経学的検査を実施するために、その意義・メカニズムを理解し、方法を習得する。

《テキスト》

松澤正、江口勝彦：『理学療法評価学 改訂第6版』、金原出版、2018年

《参考図書》

鈴木則宏：『神經診察クローズアップ-正しい病巣診断のコツ 改訂第3版』、メディカルビュー社、2015年

田崎義昭他著：『ベッドサイドの神經の診かた 改訂18版』、南山堂、2016年

医療情報科学研究所：『病気がみえるvol.7脳・神經 第2版』、メディックメディア、2017年

《学生の留意点》

解剖学・運動学・生理学の知識が前提となるので十分復習しておくこと。

実技は動きやすい服装(Tシャツ・短パン)に着替えること、実際の対象者をイメージして実技練習に臨むこと。

《目標行動(SBO)》

1. 各々の検査の定義/目的/原則を説明できる。
2. 測定を実施する際に、適切なリエクションを実施できる。
3. 各々の検査の一般的な測定手順、注意点、リスクを説明できる。
4. 検査結果の記録方法、測定器具の使用方法を説明できる。
5. 神経学的検査と障害/疾患の関係、神経解剖/生理学的、背景を説明できる。

《成績評価の方法》

筆記・実技によって評価を行う。それぞれの試験において60%かつ筆記・実技合計点数が60%の両方に満たないものは再試験を課す。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	筋緊張検査	筋緊張検査実技、筋萎縮評価実技
2	協調性検査	協調性検査の方法と手順
3	協調性検査	協調性検査の方法と手順
4	片麻痺運動機能検査	片麻痺運動機能検査
5	片麻痺運動機能検査	片麻痺運動機能検査
6	姿勢反射・バランス検査	姿勢反射・バランス検査
7	姿勢反射・バランス検査	姿勢反射・バランス検査
8	脳神経検査	脳神経検査の方法と手順
9	脳神経検査	脳神経検査の方法と手順
10	高次脳機能検査・認知症	片麻痺運動機能検査
11	高次脳機能検査・認知症	姿勢反射・バランス検査
12	症例検討	
13	症例検討	
14	症例検討	
15	症例検討	

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学				
担当者氏名	佐々木 亮平				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	2年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つために運動療法技術を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法治療学を発展させるために、理学療法の主要な治療法である運動療法を習得する。

《テキスト》

市橋則明編集：『運動療法学～障害別アプローチの理論と実際～第2版』、文光堂、2018.

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 運動療法の効果を挙げることができ、中止基準を説明できる
2. ストレッチングを施行できる
3. 原理原則に沿った筋力増強練習を施行できる
4. 全身持久力と局所持久力に対する運動療法を施行できる

《学生の留意点》

皆さんにとって初めての治療学になります。治療に必要なことは理論と技術です。治療をする意味から始まり、どの様に治療すればよいのか、どの様に行うのかを皆で考えていきましょう。理論を覚える時間と、実技の時間に分かれていきます。実技時間は感染対策としてのマスクやメガネの着用、白衣を忘れずに準備してきてください。

《成績評価の方法》

筆記試験(40%)・実技試験(60%)にて評価
100%のうち60%に届かない場合再試験該当となる

《実務経験のある教員による科目》

当科目は佐々木亮平（理学療法士）が担当し、その実務経験を治療学の知識・技術獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法士の治療	他職種の治療、理学療法士の治療 運動療法とは何か、運動療法の中止基準
2	関節可動域低下に対する理論	関節可動域が低下するとは、関節可動域制限の定義 関節可動域練習の効果と理論
3	関節可動域低下に対する運動療法①	6大関節に対するストレッチ
4	関節可動域低下に対する運動療法②	6大関節に対するストレッチ
5	関節可動域低下に対する運動療法③	6大関節に対するストレッチ
6	筋力低下に対する理論	筋力が低下する原因 筋力増強練習の効果と理論 RMとは 筋力増強練習の原理と原則
7	筋力低下に対する運動療法①	特異性の原理と過負荷の原理を用いた筋力増強練習
8	筋力低下に対する運動療法②	特異性の原理と過負荷の原理を用いた筋力増強練習
9	筋持久力低下に対する理論	筋持久力・局所持久力とは何か、筋持久力の診かた、筋持久力に対する運動療法
10	持久力低下に対する理論	運動負荷試験の
11	リラクゼーション	筋弛緩の定義、筋弛緩の目的、筋弛緩の方法
12	姿勢調整	理想的な姿勢アライメント、姿勢障害に対する運動療法をどのように進めるか
13	歩行練習	歩行練習で使用する器具の紹介 跛行と歩行練習について
14	運動学習	運動学習の理論
15	まとめ	振り返りとテストに向けて

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論				
担当者氏名	山本 千夏、佐々木 亮平、大塚 基				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つために生活者である対象者の「活動」・「参加」を評価し、支援する方法に関する知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

適切な日常生活活動の支援を実現させるために、理学療法の観点から無意識に行っていける日常生活活動を分析・評価し、対象者それぞれの生活の質を維持・向上できるような治療技術を習得する。また、補助具の処方・指導を実施できるようになるために、目的や使用方法を理解する。

《テキスト》

奈良敷監修:『日常生活活動学・生活環境学第4版』.医学書院.2017年. 千野直一他:『脳卒中の機能評価—SIASとFIM「基礎編」』. 医薬出版. 2016年.

《参考図書》

伊藤利之著:『ADLとその周辺』. 医学書院. 2015年
大川嗣雄編:『日常生活動作(活動)』医薬出版. 1999年

《目標行動(SBO)》

- 日常生活活動の概念、範囲（セルフケア、移動、コミュニケーション、IADL）が説明できる。
- 代表的なADL評価の各特徴を説明し実施できる。
- セルフケアの動作分析ができる（健常者）
- 歩行・移動補助具や車椅子の処方・指導が出来る。
- 動作の介助を標準的な方法で実施できる。
- 代表的な疾患をモデルにADL指導ができる。

《学生の留意点》

- 実技の際は白衣（KC）着用。
- グループにて課題を遂行するものもあります。時間調整など協力して進めること。
- レポートや課題の提出は時間を厳守すること。

《成績評価の方法》

課題・発表点20% 筆記試験 40% 実技試験40%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	コース・オリエンテーション	オリエンテーション
2	総論	日常生活の概念・範囲/ICFによる理学療法評価
3	ADL評価（質的評価）	セルフケアの分析①
4	ADL評価（質的評価）	セルフケアの分析①
5	ADL評価（質的評価）	セルフケアの分析②（課題作成、発表）
6	ADL評価（質的評価）	セルフケアの分析②（課題作成、発表）
7	ADL評価（量的評価）	できるADLとしているADL 各種ADL評価（BI）①
8	ADL評価（量的評価）	各種ADL評価（BI）②
9	ADL評価（量的評価）	各種ADL評価（FIM）①
10	ADL評価（量的評価）	各種ADL評価（FIM）②
11	動作介助（1）	起居動作の種類と介助方法①（全介助）
12	動作介助（1）	起居動作の種類と介助方法①（全介助）
13	動作介助（2）	起居動作の種類と介助方法②（軽～中等度介助）
14	動作介助（2）	起居動作の種類と介助方法②（軽～中等度介助）
15	動作介助（3）	移乗動作と介助方法①（全介助）

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論				
担当者氏名	山本 千夏、佐々木 亮平、大塚 基				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つために生活者である対象者の「活動」・「参加」を評価し、支援する方法に関する知識を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

適切な日常生活活動の支援を実現させるために、理学療法の観点から無意識に行っている日常生活活動を分析・評価し、対象者それぞれの生活の質を維持・向上できるような治療技術を習得する。また、補助具の処方・指導を実施できるようになるために、目的や使用方法を理解する。

《テキスト》

奈良勲監修:『日常生活活動学・生活環境学第4版』.医学書院.2017年. 千野直一他:『脳卒中の機能評価—SIASとFIM「基礎編」』.医歯薬出版.2016年.

《参考図書》

伊藤利之著:『ADLとその周辺』.医学書院.2015年
大川嗣雄編:『日常生活動作(活動)』医歯薬出版.1999年

《目標行動(SBO)》

- 日常生活活動の概念、範囲 (セルフケア、移動、コミュニケーション、IADL) が説明できる。
- 代表的なADL評価の各特徴を説明し実施できる。
- セルフケアの動作分析ができる (健常者)
- 歩行・移動補助具や車椅子の処方・指導が出来る。
- 動作の介助を標準的な方法で実施できる。
- 代表的な疾患をモデルにADL指導ができる。

《学生の留意点》

- 実技の際は白衣 (KC) 着用で参加して下さい。
- グループにて課題を遂行するものもあります。時間調整など協力して進めて下さい。
- レポートや課題の提出は時間を厳守して下さい。

《成績評価の方法》

課題・発表点20% 筆記試験 40% 実技試験40%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	動作介助 (3)	移乗動作と介助方法① (全介助)
2	動作介助 (4)	移乗動作と介助方法② (軽介助)
3	動作介助 (4)	移乗動作と介助方法② (軽介助)
4	動作介助 (5)	移乗動作と介助方法③ (部分介助)
5	動作介助 (5)	移乗動作と介助方法③ (部分介助)
6	動作介助 (6)	立ち上がり動作と介助方法①
7	動作介助 (6)	立ち上がり動作と介助方法② (症例別)
8	移乗補助具 1	車椅子 (種類と適応)
9	移乗補助具 1	車椅子 (種類と適応)
10	移乗補助具 2	歩行補助具 (杖・松葉杖その他)
11	移乗補助具 2	歩行補助具 (杖・松葉杖その他)
12	動作介助 (7)	疾患別歩行動作 (整形外科疾患)
13	動作介助 (7)	疾患別歩行動作 (整形外科疾患)
14	動作介助 (8)	疾患別歩行動作 (中枢神経疾患)
15	動作介助 (8)	疾患別歩行動作 (中枢神経疾患)

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	地域理学療法学				
担当者氏名	長屋 説				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input checked="" type="radio"/> DP2-に育つために地域包括ケアシステムに関する知識を身につける。 				

《一般教育目標(GIO)》

実生活の場での対象者支援を実現するために、理学療法士が働く地域、地域で生活する人、地域の社会資源、地域における理学療法士の役割について学ぶ。

《テキスト》

資料を配付

《参考図書》

- ・地域理学療法学、メジカルビュー
- ・ゴールドマスター テキスト 地域理学療法学、メジカルビュー
- ・地域理学療法学テキスト、学術研究出版
- ・最新 理学療法学講座 地域理学療法学、医歯薬出版

《学生の留意点》

- ・今後の感染症対策の関係で、授業内容や評価方法が変更になることがあります。
- ・地域の中のどのような場面や方法で、理学療法士としての役割を發揮できるのか、興味や理解を深めてください。

《目標行動(SBO)》

- 1 地域理学療法における理学療法士の役割について説明できる。
- 2 地域で働く職域の役割を説明できる。
- 3 地域での支援方法、資源についての基礎を知ることができる。
- 4 理学療法士の多岐にわたる領域の広がりを知る。

《成績評価の方法》

課題30%
定期試験70%

感染対策下においては変更になる可能性もあります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、それぞれ経験豊のある理学療法士（外部講師：理学療法士）、と長屋（専任教員：理学療法士）が担当し、実務経験を活かした授業としています。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	授業オリエンテーション	コースオリエンテーション/評価方法/授業準備について/歴史
2	地域理学療法の概念と実際	(小野先生) 地域とは/地域理学療法/CBRの概念/他
3	介護保険サービス/介護予防の階層	1次予防/2次予防/3次予防/他
4	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステム/地域ケア会議/他
5	行政における理学療法士	(和島英明：市役所 理学療法士)～事例紹介～ 行政における理学療法士の機能と役割
6	介護予防における理学療法士	介護予防における理学療法士の役割
7	健康維持、健康増進における理学療法士	健康維持、健康増進における理学療法士の役割
8	入所施設/通所施設の理学療法士	入所・通所施設での理学療法士の役割
9	訪問における理学療法士	訪問リハビリテーションでの理学療法士の役割
10	産業理学療法	産業理学療法に就く理学療法士の役割
11	特別支援教育における理学療法	(中山雅和：特別支援教育 小金井市発達支援センター 理学療法士) 特別支援教育における理学療法士の役割/特別支援教育での業務について
12	国際支援における理学療法	(外部講師)～JICAでの活動について～ 国際支援における理学療法士の役割/国際支援に関わる基盤について
13	災害時の理学療法	(岩戸徹：多摩リハビリテーション学院 教務部長)～東日本大震災での理学療法士の活動～ 大規模震災時における活動支援/災害時における理学療法士の役割
14	緩和ケア・終末期医療における理学療法	(内野寿則：杏雲堂病院リハ科 技術科技師長)～がん患者さんのリハビリテーション～ 緩和ケアにおける理学療法士の役割/終末期医療における理学療法士の役割
15	まとめ	コースの確認/内容の理解、補足

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習 I				
担当者氏名	林 佑樹				
授業方法	実習	単位・回	2単位・0回	開講午次・開講期	2年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では患者の思いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために検査測定を体験する。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職としてビジネスマナーを身につける。 <input type="radio"/> DP3-に育つために地域包括ケアシステムの中での実習施設の役割について説明できる。 <input type="radio"/> DP4-に育つためにるべき専門職の姿を考察する。			

《一般教育目標(GLO)》

1. 地域領域に関わる施設のもと、理学療法士がどのように関わっているのかを知る。
2. 指導者のもとに、それまで学内で習得した検査・測定を臨床の実践の中で実施し、得られた結果に原因分析と解釈を行う。
3. 理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を学習する。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 地域領域に関わる理学療法士を見学することができる。
2. 肢長・周径測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、神経学的検査などの検査測定が実施できる。
3. 検査結果の分析が言える。
4. 起居・移乗・移動動作などの介助が行える。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書・提出書類・実習後セミナー

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした実習としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		地域領域に関わる理学療法士を見学を実施する
2		肢長・周径測定、関節可動域測定、徒手筋力検査、神経学的検査などの検査測定が実施と記録を数多く実施する
3		実施した検査測定項目ごとに、正常から逸脱した結果を抽出させ、知識の範囲内で原因分析をさせる
4		標準的な方法で起居動作や移乗・移動動作の介助を多く実習させる
5		
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	疾病管理論				
担当者氏名	複数外来講師				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識を身につける。		

《一般教育目標(GIO)》

医療職である療法士として疾病予防とその管理を理解するために、栄養学、臨床薬学、救急救命医学を学ぶ。

《テキスト》

授業の中で資料を配布する。

《参考図書》

授業のなかで紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 栄養学の基礎知識と医療現場での栄養療法の基礎を理解できる。
2. 薬の概要を学び、生体内動態を理解できる。
3. 応急手当を実施できる。

《学生の留意点》

理学療法業務の中で、遭遇する重要な知識、技術を扱います。短期間ですが、集中して習得してください。よく分からぬことやもっと知りたいことを沢山つくり、各講師と対話をするようお願いします。上級救命講習が開催できる場合は、費用2,800円が必要です。

《成績評価の方法》

栄養学、臨床薬学、救急救命医学がそれぞれ1/3ずつ評価し、合算の上、評定をつける。

《実務経験のある教員による科目》

実務経験がある管理栄養士、薬剤師、そして救急救命士が担当する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	栄養学①	栄養学概論 (栄養とは・消化と吸収)
2	栄養学②	栄養素の種類と機能 I (三大栄養素)
3	栄養学③	栄養素の種類と機能 II (ビタミン・ミネラル)
4	栄養学④	運動と栄養 (エネルギー代謝・スポーツ栄養)
5	栄養学⑤	リハビリテーション栄養 (リハビリテーション栄養とは・栄養評価・栄養ケアプロセス)
6	臨床薬学①	薬とは
7	臨床薬学②	薬の分類
8	臨床薬学③	薬の生体内動態 (吸収、分布)
9	臨床薬学④	薬の生体内動態 (代謝、排泄)
10	臨床薬学⑤	疾患に対する薬物療法
11	救命救急医学①	応急手当①
12	救命救急医学②	応急手当②
13	救命救急医学③	応急手当③
14	救命救急医学④	応急手当④
15	救命救急医学⑤	応急手当⑤

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床運動学				
担当者氏名	福田 崇				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP2に育つための基礎的な知識を身につける。 <input type="radio"/> DP2に育つために専門職として障害像の診方を身につける。				

《一般教育目標(GIO)》

動作における問題点を抽出できるようになるために、理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢観察・分析、動作観察・分析の方法を理解する。

《目標行動(SBO)》

1. 姿勢と動作の観察に必要な用語を使うことができる
2. 基本姿勢・動作の観察を記述することができる
3. 基本姿勢・動作について、観察により発見した特徴を描画(図示)することができる

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《テキスト》

脳卒中片麻痺の基本動作分析 メジカルビュー社 (5940円)

《参考図書》

基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 (6800円) 日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ 第2版 南江堂 (6380円)
 観察による歩行分析 医学書院 (5000円) 介護にいかすバイオメカニクス 医学書院 (4095円) PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 羊土社 (5000円)

《学生の留意点》

- ・演習時は動作観察し易い服装に着替えること。
- ・講義の進捗状況によって単元が入れ替わることがあります。
- ・演習時は能動的に学習を実施し、協同学習者とともにより良い学びとなるよう努力すること。
- ・講義内外に積極的に観て、考えて、書くことが上達に繋がります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を姿勢や動作の観察・分析のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	動きに関する概要1	動きを考える対象と側面
2	動きに関する概要2	動きの研究、理学療法士にとっての動き
3	動きの評価1	動きの評価
4	動きの評価2	動きを評価する視点と基準
5	動きの評価3	理学療法士が動きを評価する視点
6	動きの評価4	理学療法士が動きを評価する基準
7	臥位動作のメカニズム1	臥位動作における身体運動
8	臥位動作のメカニズム2	臥位動作に必要な身体構造と心身機能
9	臥位動作の評価1	臥位動作の日常生活動作的評価
10	臥位動作の評価2	臥位動作の異常動作的評価
11	臥位動作の評価3	臥位動作の運動学的評価
12	臥位動作の評価4	臥位動作の評価まとめ
13	座位動作のメカニズム1	座位動作における身体運動
14	座位動作のメカニズム2	座位動作に必要な身体構造と心身機能
15	座位動作の評価1	座位動作の日常生活動作的評価

《専門基礎分野 疾病と障害の成り立ちおよび回復過程の促進》

科目名	臨床運動学				
担当者氏名	福田 崇				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			<input type="radio"/> DP2-に育つための基礎的な知識を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として障害像の診方を身につける。		

《一般教育目標(GIO)》

動作における問題点を抽出できるようになるために、理学療法評価における動作観察・分析の位置づけを理解し、健常者や患者の姿勢観察・分析、動作観察・分析の方法を理解する。

《目標行動(SBO)》

4. 基本動作に必要となる運動学・運動力学的要求を理解・説明できる
5. 姿勢・動作観察から、その特徴や異常を発見し、その原因となる機能障害を導き出すことができる

《成績評価の方法》

筆記試験100%

《テキスト》

脳卒中片麻痺の基本動作分析 メジカルビュー社 (5940円)

《参考図書》

基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 (6800円) 日常生活活動の分析 身体運動学的アプローチ 第2版 南江堂 (6380円)
観察による歩行分析 医学書院 (5000円) 介護にいかすバイオメカニクス 医学書院 (4095円) PT・OTビジュアルテキスト 姿勢・動作・歩行分析 羊土社 (5000円)

《学生の留意点》

- ・演習時は動作観察し易い服装に着替えること。
- ・講義の進捗状況によって単元が入れ替わることがあります。
- ・演習時は能動的に学習を実施し、協同学習者とともにより良い学びとなるよう努力すること。
- ・講義内外に積極的に観て、考えて、書くことが上達に繋がります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を姿勢や動作の観察・分析のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	座位動作の評価2	座位動作の異常動作的評価
2	座位動作の評価3	座位動作の運動学的評価
3	座位動作の評価4	座位動作の評価まとめ
4	立位動作のメカニズム1	立位動作における身体運動
5	立位動作のメカニズム2	立位動作に必要な身体構造と心身機能
6	立位動作の評価1	立位動作の日常生活動作的評価
7	立位動作の評価2	立位動作の異常動作的評価
8	立位動作の評価3	立位動作の運動学的評価
9	立位動作の評価4	立位動作の評価まとめ
10	移動動作のメカニズム1	移動動作における身体運動
11	移動動作のメカニズム2	移動動作に必要な身体構造と心身機能
12	歩行の評価1	歩行の日常生活動作的評価
13	歩行の評価2	歩行の異常動作的評価
14	歩行の評価3	歩行の運動学的評価
15	歩行の評価4	歩行の評価まとめ

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法演習Ⅲ				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

臨床実習Ⅱの目標を達成するために、社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、社会人・医療人としての立ち振る舞い、プロフェッショナリズムを実践的に学習し、体得できる。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

特に指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 社会医学技術学院の学生である意味を説明できる。
2. 医療人としてのマナー、医療安全について説明できる。
3. 検査測定(評価)を実際の患者さんに行う準備をする。
4. 問題点出、目標設定ができる準備ができる。
5. 治療プログラムを列挙する準備ができる。
6. 基本動作の指導や介助をする準備ができる。
7. 臨床実習Ⅱを遂行するための心構えができる。

《成績評価の方法》

まとめ・課題：100%（指定用紙に各回の記録をし、次の授業時に提出すること。最終日は授業終了時に提出すること。）
オンライン授業になった場合には、課題の内容に不備があれば出席としないことがある。

《学生の留意点》

医療人としてのマナーや、外部施設とのかかわりを持つうえでの留意点を学んでいきます。社会医学技術学院の学生としての自覚を持ち、適切な立ち振る舞いが実践できるような意識で臨んでください。検査測定技術、基本的な介助のスキルアップを目指します。実技は実習に則した服装で参加すること。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容になっている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	授業内容オリエンテーション、実習地について調べる、実習中の「記録」について検査結果の記録・実習ノートなど、医療人のマナー
2	オリエンテーション	授業内容オリエンテーション、実習地について調べる、実習中の「記録」について検査結果の記録・実習ノートなど、医療人のマナー
3	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
4	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
5	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
6	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
7	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
8	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
9	実習準備（実技）	実技練習 関節可動域測定・徒手筋力検査・神経学的検査・基本動作介助
10	実習前実技確認（試験）	実習前実技試験
11	実習前実技確認（試験）	実習前実技試験
12	実習後セミナー	症例報告会
13	実習後セミナー	症例報告会
14	実習後セミナー（実技）	実習で得た情報共有（実技）
15	実習後セミナー（実技）	実習で得た情報共有（実技）

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法評価学Ⅲ				
担当者氏名	沼尾 拓				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取れるための評価技術や必要な知識、コミュニケーション技術、態度を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識および臨床思考能力、技術、態度を身につける。			

《一般教育目標(GIO)》

一般目標：妥当な理学療法評価を実施するために、画像情報をはじめとする医学検査情報を理解すること。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

宮越浩一編：『画像評価』、医学書院、2021。
 高木康他編：『標準臨床検査医学』第4版、医学書院、2013。
 美津島隆他監修：『リハスタッフのためのイチからわかる臨床検査活用術』、メディカルビュー社、2018。

《目標行動(SBO)》

1. 画像情報を理解できる。
2. 血液学的/生化学検査を理解できる。
3. 生体機能検査を理解できる。

《学生の留意点》

安全な理学療法を遂行する上で必須の情報である画像、血液検査、生理検査を理解することは、病態の理解や理学療法の効果判定に欠かせません。解剖学、生理学、病理学、臨床医学の復習をしながら、学修をすすめてください。

《成績評価の方法》

筆記試験80%，小テスト20%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論（沼尾）	理学療法評価のふりかえり、画像情報/臨床検査の概要、理学療法評価における画像情報/臨床検査の意義
2	運動器系画像情報①（沼尾）	脊椎
3	運動器系画像情報②（沼尾）	上肢
4	運動器系画像情報③（沼尾）	骨盤・下肢
5	中枢神経系画像情報①（沼尾）	脳画像の基本的見方 脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、硬膜下・硬膜外出血
6	中枢神経系画像情報②（沼尾）	正常圧水頭症、脳腫瘍、認知症、神経変性疾患
7	生体機能検査①（沼尾）	筋電図、基礎代謝、脳波検査
8	生体機能検査②（林）	超音波検査、呼吸機能検査、心電図
9	呼吸器系画像情報（林）	肺炎、慢性閉塞性肺疾患、肺がん、気胸
10	循環器系画像情報（林）	心不全、大動脈瘤/大動脈解離、深部静脈血栓症
11	血液学的検査（林）	血球検査、血栓/止血検査
12	生化学検査（林）	ホルモン系、肝/胆/腎/膵系、タンパク/酵素系、糖質/脂質系、電解質/血液ガス、尿、腫瘍マーカー、免疫系
13	症例検討①（伊藤）	症例を通して、理学療法評価への画像情報と臨床検査情報の活用を学ぶ
14	症例検討②（伊藤）	症例を通して、理学療法評価への画像情報と臨床検査情報の活用を学ぶ
15	まとめ（沼尾）	コース全体の「ふりかえり」と理学療法臨床推論への接続を考察する

《専門分野 理学療法評価学》

科目名	理学療法臨床推論				
担当者氏名	小宮山 一樹				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者に必要な臨床推論を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な臨床推論を身につける。		

《一般教育目標(GIO)》

適切な治療を提供できるようになるために、理学療法評価の位置づけや流れを理解し、症例検討を通じて理学療法評価における一連の流れ、臨床推論を理解、実践する。

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

千住秀明監修：『理学療法学テキストⅡ 理学療法評価法第3版』、神陵文庫、2011年。

内山靖：『標準理学療法学（理学療法評価学）第2版』、医学書院、2004年。

《目標行動(SBO)》

- 評価の各項目（情報収集・問題点の抽出・目標設定・プログラム立案）について説明できる。
- 検査測定結果に意味づけをおこなうことができる。
- 検査測定結果や情報の統合を行い、問題点を抽出できる。
- 目標設定・治療計画立案を行うことができる。

《学生の留意点》

検査測定結果や情報収集結果を統合し治療プログラム立案までの思考過程を学ぶ授業である、思考を言語化することを意識して受講してほしい。

《成績評価の方法》

期末試験(60%)、レポート課題(40%)

再試験要件 期末試験(60%)と課題(40%)の合計100点のうち

合計60点未満の者は再試験とする

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法評価・ 臨床推論とは	臨床推論オリエンテーション／情報収集について
2	ノ	情報収集の位置づけと重要性・情報の種類と情報取得の方法
3	機能障害を捉える	機能から推論できること
4	活動制限を捉える	活動から推論できること
5	検査結果からわかること ①	得られた情報と検査測定結果のまとめ方～機能、活動の関連性～
6	検査結果からわかること ②	得られた情報と検査測定結果のまとめ方～問題点リスト作成までの流れ～
7	目標設定・プログラム立案の方法	目標設定、プログラム立案のためのポイント
8	目標設定・プログラム立案の方法	目標設定、プログラム立案の実践
9	症例検討①	症例検討の提示
10	症例検討②	グループワーク
11	症例検討③	グループワーク
12	症例検討④	グループワーク
13	症例検討⑤	グループワーク
14	症例検討⑥	発表

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動器系理学療法学				
担当者氏名	森田 浩章				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力			<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、コミュニケーション能力を身につける		

《一般教育目標(GIO)》

運動器障害に対する理学療法評価および治療立案および実施するため、代表的な整形外科疾患の病態と障害に対する検査測定および治療プログラムを身につける。

《テキスト》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション、羊土社、2012.

《参考図書》

井樋栄二：標準整形外科学 第14版、医学書院、2020.
S. Hoppenfeld：図解 四肢と脊椎の診かた、医歯薬出版、1984.
市橋則明編：運動療法学 第2版、文光堂、2014.

《目標行動(SBO)》

1. 各関節の機能解剖と機能障害を踏まえた検査測定ができる
2. 運動器障害を引き起こす代表的な整形外科疾患を説明できる
3. 疾患名からリスク・運動器の障害・検査測定が想起できる
4. 基本的な運動療法の方法・留意点を理解し説明できる
5. 代表的な運動療法プログラムを想起でき、実施できる

《学生の留意点》

以下の注意点を気を付けながら、実技を習得すること
 ①事前準備 ②オリエンテーション ③体調確認 ④触れ方
 ⑤動かし方 ⑥動作指示 ⑦検査測定 ⑧治療 ⑨記録 ⑩結果説明
 ⑪片付け

《実務経験のある教員による科目》

・本科目は、森田浩章（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業に反映している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	授業説明・総論①	整形外科（骨折・脱臼・変形性関節症）リハにおける評価・治療
2	授業説明・総論②	整形外科（骨折・脱臼・変形性関節症）リハにおける評価・治療
3	上肢各論①	肩関節の評価・治療
4	上肢各論②	肩関節の評価・治療
5	上肢各論③	肩関節の症例問題
6	上肢各論④	肩関節の症例問題
7	上肢各論⑤	肘関節の評価・治療・症例問題
8	上肢各論⑥	肘関節の評価・治療・症例問題
9	上肢各論⑦	手関節・手部の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
10	上肢各論⑧	手関節・手部の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
11	下肢各論①	股関節の評価・治療
12	下肢各論②	股関節の評価・治療
13	下肢各論③	股関節の症例問題
14	下肢各論④	股関節の症例問題
15	下肢各論⑤	膝関節の評価・治療・症例問題

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動器系理学療法学				
担当者氏名	森田 浩章				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、コミュニケーション能力を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

運動器障害に対する理学療法評価および治療立案および実施するため、代表的な整形外科疾患の病態と障害に対する検査測定および治療プログラムを身につける。

《テキスト》

神野哲也：ビジュアル実践リハ 整形外科リハビリテーション. 羊土社. 2012.

《目標行動(SBO)》

- 各関節の機能解剖と機能障害を踏まえた検査測定ができる
- 運動器障害を引き起こす代表的な整形外科疾患を説明できる
- 疾患名からリスク・運動器の障害・検査測定が想起できる
- 基本的な運動療法の方法・留意点を理解し説明できる
- 代表的な運動療法プログラムを想起でき、実施できる

《参考図書》

井樋栄二：標準整形外科学 第14版. 医学書院. 2020.

S.Hoppenfeld : 図解 四肢と脊椎の診かた. 医歯薬出版. 1984.

市橋則明編：運動療法学 第2版. 文光堂. 2014.

《学生の留意点》

以下の注意点を気を付けながら、実技を習得すること

- ①事前準備 ②オリエンテーション ③体調確認 ④触れ方
- ⑤動かし方 ⑥動作指示 ⑦検査測定 ⑧治療 ⑨記録 ⑩結果説明
- ⑪片付け

《実務経験のある教員による科目》

・本科目は、森田浩章（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業に反映している。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	下肢各論⑥	膝関節の評価・治療・症例問題
2	下肢各論⑦	下腿の評価・治療・症例問題
3	下肢各論⑧	下腿の評価・治療・症例問題
4	下肢各論⑨	足関節・足部の評価・治療・症例問題
5	下肢各論⑩	足関節・足部の評価・治療・症例問題
6	体幹各論①	上部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
7	体幹各論②	下部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
8	体幹各論③	下部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
9	体幹各論④	下部脊椎の評価・治療・症例問題 末梢神経内容を含む
10	リウマチ各論①	関節リウマチの評価・治療・症例問題
11	リウマチ各論②	関節リウマチの評価・治療・症例問題
12	評価技能習得①	代表的な評価技能の練習を行う
13	評価技能習得②	代表的な評価技能の練習を行う
14	スポーツ理学療法①	スポーツ損傷・外傷に関わる理学療法（外部講師）
15	スポーツ理学療法②	スポーツ損傷・外傷に関わる理学療法（外部講師）

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法学 I				
担当者氏名	中山 雅和				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の想いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

脳卒中後遺症患者に対し、理学療法を展開するために、脳血管疾患の障害を理解し、その障害における評価方法についての知識・技術を習得し、基本的な介入方法を身につける。

《目標行動(SBO)》

1. 脳画像を見て構造と機能が説明できる。
2. 脳血管疾患における障害を説明できる。
3. 脳血管疾患の評価項目を列挙し、実施・記載することができる。

《成績評価の方法》

実技試験（30%），筆記試験（70%）

《テキスト》

石川朗・大畠光司・玉木彰 神經障害理学療法学 I 第2版

《参考図書》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則 著：『脳卒中の臨床神経リハビリテーション』、市村出版、2016年。、梶浦一郎・紀伊克昌・鈴木恒彦 著：『脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション』、市村出版、2012年。、Oswald Steward著 伊藤博信他訳：『機能的神経科学』、丸善出版、2007年。、富田昌夫訳：『Steps to Follow』、シュプリング・フェラーラ東京、2005年。

《学生の留意点》

- * 実技についてはジャージ・Tシャツ・短パン等で臨むこと。
- * 脳血管障害患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
- * より多くの学生と実技を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	総論	脳血管障害のリハビリテーションの考え方、脳の解剖と生理と脳画像診断①
2	総論	脳血管障害のリハビリテーションの考え方、脳の解剖と生理と脳画像診断②
3	各論	脳血管障害の病態と障害の理解①
4	各論	脳血管障害の病態と障害の理解②
5	脳卒中の評価	筋緊張と腱反射の関係、連合反応、筋緊張の評価①
6	脳卒中の評価	筋緊張と腱反射の関係、連合反応、筋緊張の評価②
7	脳卒中の評価	Brunnstrom Recovery Stage による評価①
8	脳卒中の評価	Brunnstrom Recovery Stage による評価②
9	合併症	嚥下障害、二次的合併症①
10	合併症	嚥下障害、二次的合併症②
11	リスク管理	急性期のリスク管理、予後予測、治療の考え方①
12	リスク管理	急性期のリスク管理、予後予測、治療の考え方②
13	治療学基礎	急性期のポジショニング、機能障害に対するハンドリング①
14	治療学基礎	急性期のポジショニング、機能障害に対するハンドリング②
15	姿勢観察	脳血管障害患者の姿勢の評価①

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法学 I				
担当者氏名	中山 雅和				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

脳卒中後遺症患者に対し、理学療法を展開するために、脳血管疾患の障害を理解し、その障害における評価方法についての知識・技術を習得し、基本的な介入方法を身につける。

《目標行動(SBO)》

4. 各姿勢・正常動作における構成要素を説明し、健常者に対し動作を誘導できる。
5. 脳血管障害患者の学療法評価を立案・実施できる
6. 脳血管障害患者の動作改善のための課題呈示ができる

《成績評価の方法》

実技試験（30%），筆記試験（70%）

《テキスト》

石川朗・大畑光司・玉木彰 神経障害理学療法学 I 第2版

《参考図書》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則 著：『脳卒中の臨床神経リハビリテーション』、市村出版、2016年。、梶浦一郎・紀伊克昌・鈴木恒彦 著：『脳卒中の治療・実践神経リハビリテーション』、市村出版、2012年。、Oswald Steward著 伊藤博信他訳：『機能的神経科学』、丸善出版、2007年。、富田昌夫訳：『Steps to Follow』、シュプリング・フェアリーク東京、2005年。

《学生の留意点》

* 実技についてはジャージ・Tシャツ・短パン等で臨むこと。
 * 脳血管障害患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
 * より多くの学生と実技を行うこと。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	姿勢観察	脳血管障害患者の姿勢の評価②
2	基本動作の治療	脳血管障害患者の起居動作の評価とその誘導①
3	基本動作の治療	脳血管障害患者の起居動作の評価とその誘導②
4	基本動作の治療	脳血管障害患者の立ち上がり動作の評価とその誘導①
5	基本動作の治療	脳血管障害患者の立ち上がり動作の評価とその誘導②
6	歩行の治療	脳血管障害患者の歩行動作の評価とその誘導①
7	歩行の治療	脳血管障害患者の歩行動作の評価とその誘導②
8	包括的評価と高次脳機能障害	脳血管障害の包括的評価、高次脳機能障害の評価と治療①
9	包括的評価と高次脳機能障害	脳血管障害の包括的評価、高次脳機能障害の評価と治療②
10	評価演習	模擬症例に対する評価演習①
11	評価演習	模擬症例に対する評価演習②
12	治療演習	模擬症例に対する治療方法の検討①
13	治療演習	模擬症例に対する治療方法の検討②
14	治療演習	模擬症例に対する治療方法の検討③
15	治療演習	模擬症例に対する治療方法の実践④

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	中枢神経系理学療法学Ⅱ				
担当者氏名	山形 哲行				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

脳血管障害患者に対して理学療法を実施できるようになるため
に基礎的な治療技術を習得する。

《テキスト》

鈴木恒彦・紀伊克昌・真鍋清則編
脳卒中の臨床神経リハビリテーション 市村出版

《参考図書》

隨時紹介していく

《目標行動(SBO)》

- 姿勢・動作改善のためのハンドリングが実施できる
- 脳血管障害患者に対する評価から治療手段の選択までの一連の流れを組み立てる事ができる
- 脳血管障害患者のADL改善のための治療手段を選択できる
- 脳血管障害患者に対して、理学療法治療計画を立案し、一部を実施できる

《学生の留意点》

- *患者を想定し、動作の誘導方法を身に付けて欲しい。
- *実技についてはジャージ・Tシャツ等で臨むこと。
- *より多くの学生と実技を行うこと。

《成績評価の方法》

実技（40%），筆記テスト（60%），で総合的に評価する

《実務経験のある教員による科目》

当科目は山形哲行（理学療法士）が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	治療学総論①	脳血管障害患者の理学療法に必要な神経機構、治療戦略、ハンドリングの基本①
2	治療学総論②	脳血管障害患者の理学療法に必要な神経機構、治療戦略、ハンドリングの基本②
3	治療学各論①	脳血管障害患者の理学療法評価①
4	治療学各論②	脳血管障害患者の理学療法評価②
5	治療学各論③	ハンドリング：寝返り～起き上がり①
6	治療学各論④	ハンドリング：寝返り～起き上がり②
7	治療学各論⑤	ハンドリング：座位～立ち上がり①
8	治療学各論⑥	ハンドリング：座位～立ち上がり②
9	治療学各論⑦	バランス反応の再教育（座位バランス）
10	治療学各論⑧	バランス反応の再教育（立位バランス）
11	歩行の神経機構	歩行の神経学的背景について
12	治療学各論⑨	ハンドリング：歩行
13	脳血管障害のエビデンス	脳血管疾患患者のEBPT (Evidence Based Physical Therapy)
14	症例検討①	脳血管障害患者の模擬症例検討①
15	症例検討②	脳血管障害患者の模擬症例検討②

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	発達系理学療法学				
担当者氏名	平井 孝明				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

発達障害領域の対象者に理学療法を実施するために、代表的な小児疾患について理解する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

毎回の授業時に紹介します

《目標行動(SBO)》

1. 小児疾患の特徴について説明できる
2. 臨床像より評価と問題点を指摘し、治療の方向を提示できる
3. 脳性麻痺の理学療法評価と治療について説明できる
4. 重症心身障害の特徴と合併症について説明できる
5. 上記以外の代表的な小児疾患について、臨床像、理学療法評価と治療について述べることが出来る
6. 社会資源の種類と活用方法について説明できる

《学生の留意点》

質疑応答、グループ発表、実技を行います

《成績評価の方法》

ワークシート30%、質疑応答30%、課題発表20%、期末試験20%
ワークシート：毎回授業の最後に配布します、期限内に提出して下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	小児理学療法	小児理学療法総論
3	〃	小児運動発達①
4	〃	小児運動発達②
5	〃	小児整形疾患
6	〃	二分脊椎
7	〃	染色体異常
8	〃	脳性麻痺・痙攣型①
9	〃	脳性麻痺・痙攣型②
10	〃	脳性麻痺アテトーゼ型①
11	〃	脳性麻痺アテトーゼ型②
12	〃	脳性麻痺失調型
13	〃	重症心身障害児①
14	〃	重症心身障害児②
15	〃	まとめ

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	神経筋系理学療法学				
担当者氏名	山形 哲行				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では神経筋疾患の対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

神経筋系障害の対象者へ効果的な理学療法を実施するために、妥当な評価に基づいて理学療法プログラムを立案し、実施できる。

《テキスト》

PT・OTビジュアルテキスト 神経障害理学療法学 潮見泰藏
羊土社

《参考図書》

適宜紹介する

《目標行動(SBO)》

- ・神経筋系理学療法評価が実施できる。
- ・基本的な神経筋系理学療法プログラムを立案できる。
- ・基本的な神経筋系理学療法を実施できる。

《学生の留意点》

リハ医学・臨床神経学を復習の上、授業に臨むことを心掛ける

《成績評価の方法》

筆記試験70%、実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	神経障害理学療法学総論 ①	中枢神経と末梢神経
2	神経障害理学療法学総論 ②	神経系障害患者への理学療法評価
3	脊髄損傷の基礎	脊髄損傷の病態
4	脊髄損傷完全型	完全型の評価と治療
5	脊髄損傷不全型	不全型の評価と治療
6	Parkinson病	Parkinson病の病態
7	Parkinson病とその関連疾患	Parkinson病とその関連疾患の評価と治療
8	脊髄小脳変性症	脊髄小脳変性症の評価と治療
9	多発性硬化症	多発性硬化症の評価と治療
10	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの評価と治療
11	筋萎縮性側索硬化症	筋萎縮性側索硬化症の評価と治療
12	多発性筋炎、皮膚筋炎	多発性筋炎、皮膚筋炎の評価と治療
13	ギランバレー症候群、重症筋無力症	ギランバレー症候群、重症筋無力症の評価と治療
14	末梢神経障害①	末梢神経障害の病態
15	末梢神経障害②	末梢神経障害の評価と治療

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学				
担当者氏名	坂出 晋一				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GLO)》

症例に適切な物理療法の立案と実施手順を行うために物理療法の基本操作を理解・実践する。

《テキスト》

《参考図書》

細田多穂監修：『シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト：改訂第2版』、南江堂、2013年、Michelle H. Cameron編著、渡部一郎 訳：『EBM物理療法 原著第3版』、医歯薬出版、2015年、柳澤健編集：『コードマスター3物理療法学』、MEDICALVIEW、2009年、大塚彰監修：『学生のための物理療法学』、大学教育出版、2004年

《目標行動(SBO)》

- 物理療法の生理的作用と適応を説明できる
- 物理療法の禁忌と注意事項を説明できる
- 基本的な操作を理解し実施できる
- 適切なプログラムを実施できる

《学生の留意点》

感染拡大防止の観点から、事前学習の上、授業に参加していただく回もあります。
機器類を扱う授業においては、4人程度の班に分かれ、複数の教室で実技練習をしていただくこともあります。
使用機器の準備・片付けについても現場では必要となりますので学生同士で協力しながら実施をお願いします。

《成績評価の方法》

実技試験（100%）

ルーブリック評価等、確認をお願いします。

1~10回目までオンデマンド講義ですが、11~30回の実技練習等で技術習得を目指していきたいと思います。宜しくお願い致します。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	物理療法概論	物理療法の概要
2	物理療法概論	物理療法の概要
3	物理療法概論	物理療法の適応と禁忌：炎症・疼痛ほか
4	物理療法概論	物理療法の適応と禁忌：炎症・疼痛ほか
5	熱（温熱）エネルギー	温熱療法：ホットパック、パラフィンほか 適応および禁忌 治療方法
6	熱（寒冷）エネルギー	アイスパック等実施 適応および禁忌 治療法
7	水治療法	温熱療法：渦流浴 寒冷療法：冷水浴 交代浴ほか 適応および禁忌 治療法
8	電磁エネルギー	マイクロ波（極超短波）治療 適応および禁忌 治療方法 光線療法
9	力学的エネルギー	超音波療法 適応および禁忌 治療方法
10	力学的エネルギー	牽引療法 適応および禁忌 治療方法 CPM療法 適応および禁忌 治療方法
11	力学的エネルギー	マッサージ・モビライゼーション 適応および禁忌 治療方法
12	電気エネルギー	電気刺激療法：低周波電気刺激療法ほか 適応および禁忌 治療法
13	電気エネルギー	電気刺激療法：低周波電気刺激療法ほか 適応および禁忌 治療法
14	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスパック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施
15	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスパック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	物理療法学				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講午次・開講期	3年・前期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として治療に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

症例に適切な物理療法の立案と実施手順を行うために物理療法の基本操作を理解・実践する。

《テキスト》

《参考図書》

細田多穂監修：『シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト：改訂第2版』、南江堂、2013年、Michelle H. Cameron編著、渡部一郎 訳：『EBM物理療法 原著第3版』、医歯薬出版、2015年、柳澤健編集：『ゴールドマスター外3物理療法学』、MEDICALVIEW、2009年、大塚彰監修：『学生のための物理療法学』、大学教育出版、2004年

《目標行動(SBO)》

- 物理療法の生理的作用と適応を説明できる
- 物理療法の禁忌と注意事項を説明できる
- 基本的な操作を理解し実施できる
- 適切なプログラムを実施できる

《学生の留意点》

感染拡大防止の観点から、事前学習の上、授業に参加していただく回もあります。

機器類を扱う授業においては、4人程度の班に分かれ、複数の教室で実技練習をしていただくこともあります。

使用機器の準備・片付けについても現場では必要となりますので学生同士で協力しながら実施をお願いします。

《成績評価の方法》

実技試験（100%）

ループリック評価等、確認をお願いします。

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスピック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施
2	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスピック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施
3	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスピック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施
4	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスピック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施
5	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスピック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施
6	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスピック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施
7	実技練習	ホットパック、パラフィン、アイスピック、渦流浴、マイクロ波、低周波電気刺激、超音波、牽引の実施
8	最新の物理療法を知ろう	酒井医療の最新の物理療法の体験機会
9	最新の物理療法を知ろう	酒井医療の最新の物理療法の体験機会
10	プログラム立案1と処方	障害モデルの理解 プログラムに必要な要素を理解する 実際に行う
11	プログラム立案2と処方	障害モデルの理解 プログラムに必要な要素を理解する 実際に行う
12	プログラム立案3と処方	障害モデルの理解 プログラムに必要な要素を理解する 実際に行う
13	プログラム立案4と処方	障害モデルの理解 プログラムに必要な要素を理解する 実際に行う
14	プログラム立案5と処方	障害モデルの理解 プログラムに必要な要素を理解する 実際に行う
15	プログラム立案6と処方	障害モデルの理解 プログラムに必要な要素を理解する 実際に行う

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	日常生活活動論演習				
担当者氏名	中山 雅和				
授業方法	演習	単位・回	1単位・15回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

理学療法士として日常生活動作獲得へ導けるようになるため
に、日常生活活動に対する個別性・多様性の認識を持ち、実技・
体験から理学療法プランを臨機応変に考える必要性を理解す
る。

《テキスト》

《参考図書》

奈良勲監修：標準理学療法学専門分野『日常生活活動学・生活
環境学第4版』医学書院 2012
伊藤利之著：ADLとその周辺 第3版 医学書院2015

《目標行動(SBO)》

- 疾患に応じたADLの特徴、動作方法、リスクを述べることができる
- 疾患に応じたADLの特徴、動作方法、リスクを踏まえた対策・動作方法を述べることができる
- 疾患に応じたADLの特徴、動作方法、リスクを踏まえた対策・動作方法の指導・介助を行うことができる

《学生の留意点》

医療福祉の現場で働くための第一歩であることを常に意識して
ください。
実技は経験する量が大事ですから繰り返して練習してください。

《成績評価の方法》

筆記試験（もしくはワークシート）20% 実技試験80%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を疾患ごとの日常
生活を基に臨床思考能力獲得のために活かした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	疾患別各論	【脳血管障害の特性を理解する】①
2	疾患別各論	【脳血管障害の特性を理解する】②
3	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】①
4	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】②
5	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】③
6	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】④
7	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】⑤
8	疾患別各論	【脳血管障害のADL指導】⑥
9	疾患別各論	【関節リウマチの疾患特性とADLの実際】①
10	疾患別各論	【関節リウマチの疾患特性とADLの実際】②
11	疾患別各論	【関節リウマチに対するADL指導と自助具】①
12	疾患別各論	【関節リウマチに対するADL指導と自助具】②
13	疾患別各論	【シーティング】①
14	疾患別各論	【シーティング】②
15	疾患別各論	【高齢者の特性とADL指導】

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学				
担当者氏名	小林 規彦、森田 浩章				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

1. 対象者の障害に応じた義肢装具の活用方法を知るために構造や適合、ならびに義肢装具使用による理学療法を理解する
2. 臨床で義肢装具を活用するために、組立てや調整の技術を習得する

《テキスト》

『義肢装具学テキスト』第3版、南江堂、2018年

《参考図書》

日本整形外科学会：『義肢装具のチェックポイント第8版』、医学書院、2014年

《目標行動(SBO)》

1. 義肢装具使用に至る経緯が説明できる
2. 各義肢装具の名称・パーツ・機能および適応が説明できる

《学生の留意点》

疾患や障害に対する理解が必要、知識としての理解とともに、理学療法士の技術として修得するよう心掛け理解を深める。

《成績評価の方法》

装具：筆記試験50% 義肢：毎回の課題25% 課題レポート

25%

どちらも60%に満たない場合は再試験となります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	義肢学	義肢装具学総論①
2	〃	義肢装具学総論②
3	〃	切断者の評価①
4	〃	切断者の評価②
5	〃	大腿義足①
6	〃	大腿義足②
7	〃	大腿義足③
8	〃	大腿義足④
9	〃	大腿義足のギブスリケットの作成①
10	〃	大腿義足のギブスリケットの作成②
11	〃	足部と下腿義足①
12	〃	足部と下腿義足②
13	〃	股・膝・足部義足、障害者スポーツ①
14	〃	股・膝・足部義足、障害者スポーツ②
15	〃	義肢装具の給付・処方・臨床での理学療法の流れ①

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	義肢装具学				
担当者氏名	森田 浩章、小林 規彦				
授業方法	実技	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		<input type="radio"/> DPI-となるために本科目では対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける			

《一般教育目標(GIO)》

1. 対象者の障害に応じた義肢装具の活用方法を知るために構造や適合、ならびに義肢装具使用による理学療法を理解する
2. 臨床で義肢装具を活用するために、組立てや調整の技術を習得する

《テキスト》

『義肢装具学テキスト』第3版、南江堂、2018年

《参考図書》

日本整形外科学会：『義肢装具のチェックポイント第8版』、医学書院、2014年

《目標行動(SBO)》

1. 義肢装具使用に至る経緯が説明できる
2. 各義肢装具の名称・パーツ・機能および適応が説明できる

《学生の留意点》

疾患や障害に対する理解が必要、知識としての理解とともに、理学療法士の技術として修得するよう心掛け理解を深める。

《成績評価の方法》

装具：筆記試験50% 義肢：毎回の課題25% 課題ポート

25%

どちらも60%に満たない場合は再試験となります。

《実務経験のある教員による科目》

当科目担当は、臨床実務経験ならびに当該学会情報をもとに最新の知識や技術を紹介する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	義肢学	義肢装具の給付・処方・臨床での理学療法の流れ②
2	装具学	下肢装具 総論①
3	〃	下肢装具 総論②
4	〃	短下肢装具①
5	〃	短下肢装具②
6	〃	長下肢装具・股装具・膝装具①
7	〃	長下肢装具・股装具・膝装具②
8	〃	靴型装具①
9	〃	靴型装具・体幹装具②
10	〃	下肢装具チェックアウト①
11	〃	下肢装具チェックアウト②
12	〃	上肢装具①
13	〃	上肢装具②
14	〃	体幹装具①
15	〃	体幹装具②

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	内部系理学療法学				
担当者氏名	林 佑樹、小島 肇				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では内部疾患の対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

循環器系・呼吸器系・代謝系を中心とするがんを含めた内部障害を有する対象者の理学療法評価と治療を実施するために、それらの病態・障害特性を理解したうえで、各理学療法を修得すること。

《テキスト》

高橋哲也編：『最新理学療法学講座 内部障害理学療法学』。医歯薬出版。2021年。

《参考図書》

心臓リハビリテーション必携-指導士認定試験準拠-。日本心臓リハビリテーション学会 2011. ¥6,480 千住他監修：『呼吸理学療法標準手技』。医学書院 2008. ¥3,456 『呼吸リハビリテーションマニュアル-運動療法- 第2版』。照林社 2012. ¥3,996 清野他監修：『糖尿病の理学療法』。メディカルレビュー 2015. ¥5,616

《学生の留意点》

臨床医学の中核をなす内部障害系疾患を理解することは、他のリハビリテーション適応疾患や障害に対する理学療法を発展させる基礎になります。重要な項目を授業で取り上げ、他の項目については教科書を用いて主体的に学修することが求められます。必ず予習(動画・教科書)して参加して下さい。

《目標行動(SBO)》

1. 内部障害対象者の病態・障害特性を説明できる。
2. 内部障害対象者の理学療法評価ができる。
3. 内部障害系理学療法を立案できる。
4. 呼吸理学療法手技を実施できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，実技試験30%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	呼吸機能障害と理学療法	呼吸器の解剖生理学、血液ガスの解釈
2	"	呼吸器の解剖生理学、血液ガスの解釈
3	"	呼吸機能評価：フィジカルアセスメント、スピロメトリー、フローボリューム曲線
4	"	呼吸機能評価：フィジカルアセスメント、スピロメトリー、フローボリューム曲線
5	"	呼吸器不全の病態、呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎
6	"	呼吸器不全の病態、呼吸器疾患：慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎、誤嚥性肺炎
7	"	急性呼吸不全：人工呼吸器、酸素療法
8	"	急性呼吸不全：人工呼吸器、酸素療法
9	"	慢性呼吸不全
10	"	慢性呼吸不全
11	"	呼吸リハビリテーション：コンディショニング、呼吸介助法、排痰手技
12	"	呼吸リハビリテーション：コンディショニング、呼吸介助法、排痰手技
13	"	症例検討
14	"	症例検討
15	循環機能障害と理学療法	循環機能評価、フィジカルアセスメント

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	内部系理学療法学				
担当者氏名	林 佑樹、小島 肇				
授業方法	演習	単位・回	2単位・30回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力	<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では内部疾患の対象者の思いを汲み取るために専門職として障害像の診方を身につける。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職として治療や支援に必要な知識、臨床思考能力、技術、態度を身につける				

《一般教育目標(GIO)》

循環器系・呼吸器系・代謝系を中心とするがんを含めた内部障害を有する対象者の理学療法評価と治療を実施するために、それらの病態・障害特性を理解したうえで、各理学療法を修得すること。

《目標行動(SBO)》

1. 内部障害対象者の病態・障害特性を説明できる。
2. 内部障害対象者の理学療法評価ができる。
3. 内部障害系理学療法を立案できる。
4. 呼吸理学療法手技を実施できる。

《成績評価の方法》

筆記試験70%，実技試験30%

《テキスト》

高橋哲也編：『最新理学療法学講座 内部障害理学療法学』。医歯薬出版、2021年。

《参考図書》

心臓リハビリテーション必携-指導士認定試験準拠-。日本心臓リハビリテーション学会 2011. ¥6,480 千住他監修：『呼吸理学療法標準手技』。医学書院 2008. ¥3,456 『呼吸リハビリテーションマニュアル-運動療法- 第2版』。照林社 2012. ¥3,996 清野他監修：『糖尿病の理学療法』。メディカルレビュー 2015. ¥5,616

《学生の留意点》

臨床医学の中核をなす内部障害系疾患を理解することは、他のリハビリテーション適応疾患や障害に対する理学療法を発展させる基礎になります。重要な項目を授業で取り上げ、他の項目については教科書を用いて主体的に学修することが求められます。必ず予習（動画・教科書）して参加して下さい。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は理学療法士が担当し、その実務経験を活かした内容である。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	循環機能障害と理学療法	循環機能評価、フィジカルアセスメント
2	〃	運動生理学評価、心電図
3	〃	運動生理学評価、心電図
4	〃	虚血性心疾患
5	〃	虚血性心疾患
6	〃	心不全
7	〃	心不全
8	〃	閉塞性動脈硬化症
9	〃	閉塞性動脈硬化症
10	〃	症例検討（笠原先生）
11	〃	症例検討（笠原先生）
12	代謝障害と理学療法	糖尿病
13	〃	糖尿病
14	〃	慢性腎臓病
15	〃	慢性腎臓病

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習 II				
担当者氏名	藤川 明代				
授業方法	実習	単位・回	3単位・0回	開講年次・開講期	3年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力		<input type="radio"/> DP1-となるために本科目では患者の想いに沿った提案ができる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために評価を体験できる。 <input type="radio"/> DP2-に育つために専門職としてビジネススマナーを身につける。 <input type="radio"/> DP3-に育つために実習施設の役割について説明できる。 <input type="radio"/> DP4-に育つためにあるべき専門職の姿を考察する。			

《一般教育目標(GIO)》

指導者の指導のもとに、標準的な症例の理学療法評価を学ぶ。すなわち、医療面接、観察、検査・測定の結果や収集した種々の情報の統合と解釈、問題点の抽出から目標設定の各々の方法を学ぶ。また、理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を学習する。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 医療面接、観察、神経学的テスト、Brunnstrom Recovery Stage, ADLテスト、バランス反応テストなどの検査測定が実施できる。
2. 担当症例について問題点の抽出、目標設定ができる。
3. 担当症例について治療プログラムを基本的な範囲で挙げることができる。
4. 起居、移乗・移動動作などの指導や介助ができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

実習施設分 70% 学院分30%

《実務経験のある教員による科目》

当該分野における理学療法士としての実務の経験を生かした科目としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1		症例1~2例を受け持たせ、検査測定の実施、分析及び解釈をさせる。
2		片麻痺を中心とした中枢神経疾患に対し、神経学的テスト、BRS-t, ADLテスト、バランス反応テストなどの検査測定の実施と記録を数多く実習させる。
3		問題点を「心身機能・身体構造」、「活動」のレベルを中心に抽出させ疾患と症例の把握、統合と解釈、目標設定を行わせる。
4		検査測定の結果と抽出した問題点、設定した目標との一貫性を考えさせる。
5		学生の能力に応じて、また時間の許す範囲で方法・度量・頻度などをふまえた治療プログラム立案を経験させる。
6		起居動作介助や移乗・移動動作などの介助を数多く実習させる。
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活》

科目名	行動科学				
担当者氏名	安永 明智				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

本講義は、人々の健康を支援していくために必要な行動科学の理論や対人援助のスキルについて理解を深めることを目的とする。人の行動の背景にある個人及び環境要因、健康支援に必要な理論やスキルについて学ぶ。

《テキスト》

特に指定しない。

《参考図書》

随時、紹介する。

《目標行動(SBO)》

1. 健康支援における行動科学の必要性を説明できる。
2. 行動科学の理論を列挙し、説明できる。
3. 健康支援において対人援助を円滑に進めていくために必要なコミュニケーション・スキルを説明できる。
4. 行動科学の理論を健康支援の現場に応用していく方法を説明できる。

《学生の留意点》

討論等を取り入れ、授業を進めていく。したがって積極的に授業に参加し、能動的に学んでいくことを望む。また与えられた課題について下調べをする等の事前準備をして授業に参加することを義務とする。

《成績評価の方法》

課題レポート (100%)

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、人間環境学を習熟した講師が担当し、その実務経験を授業内容の講義、実技などにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	行動科学とはどのような学問か	健康支援に行動科学が必要とされる背景
2	行動科学の背景となる心理学の理論①	学習理論
3	行動科学の背景となる心理学の理論②	動機づけ理論
4	行動科学理論①	社会的認知理論
5	行動科学理論②	トランスセオレティカル・モデル
6	行動科学理論③	ソーシャル・マーケティング
7	行動科学理論④	ブリシード・ブロシードモデル
8	行動科学理論⑤	エコロジカル・アプローチ
9	対人援助のスキル①	対人コミュニケーションの基礎
10	対人援助のスキル②	コミュニケーション・スキル
11	対人援助のスキル③	ヘルス・コミュニケーションとは何か
12	対人援助のスキル④	ヘルス・コミュニケーション：アサーション
13	対人援助のスキル⑤	ヘルス・コミュニケーション：動機づけ面接
14	健康支援の現場における行動科学の応用①	リハビリテーションを含む健康支援の現場で行動科学はどのように援用できるのか
15	健康支援の現場における行動科学の応用②	リハビリテーションを含む健康支援の現場で行動科学はどのように援用できるのか

《基礎分野 科学的思考の基盤 人間と生活》

科目名	統計学				
担当者氏名	江川 賢一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

理学療法及び臨床研究に応用・展開するために、医療統計学の基礎的を理解する

《テキスト》

とくに指定しない

《参考図書》

鳥居泰彦, はじめての統計学, 日本経済新聞社, 1994.
竹内淳, 高校数学でわかる統計学—本格的に理解するために(ブルーパックス), 講談社, 東京2012.
西内啓, 統計学が最強の学問である, ダイヤモンド社, 2013.

《目標行動(SBO)》

1. 理学療法士に必要な統計学を説明できる
2. 理学療法研究における統計学の基礎概念を説明できる
3. 統計解析と研究デザインの関係を説明できる
4. データの種類に応じて適切な解析手法が適用できる
5. 理学療法研究における研究デザインを列挙できる

《学生の留意点》

受講までに高等学校「確率・統計」を復習すること。
数字に対する興味、関心をもって授業外学習に取り組むこと。
統計を用いてコミュニケーション能力を高めること。

《成績評価の方法》

プレゼンテーション60%, 質疑応答40%

《実務経験のある教員による科目》

研究機関における医学研究に従事した経験を活かして、臨床研究に必要な統計的手法を教授する。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法統計学概論	理学療法における統計の必要性／統計学の学び方を学ぶ
2	〃	理学療法における統計の必要性／統計学の学び方を学ぶ
3	研究デザインと統計	理学療法研究の構造、リサーチクエスチョンを理解する
4	〃	理学療法研究の構造、リサーチクエスチョンを理解する
5	統計解析の方法	理学療法研究における統計解析を理解する
6	〃	理学療法研究における統計解析を理解する
7	データの理解（講義）	データ収集、解析、報告の流れを学ぶ
8	〃	データ収集、解析、報告の流れを学ぶ
9	データの理解（実習）	グラフの書き方を学ぶ
10	〃	グラフの書き方を学ぶ
11	〃	基本統計量の求め方を学ぶ
12	〃	基本統計量の求め方を学ぶ
13	プレゼンテーション	統計を活用して学習成果を報告する
14	〃	統計を活用して学習成果を報告する
15	理学療法への統計学の応用	理学療法における統計学の応用を知る

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法概論 II				
担当者氏名	小林 規彦				
授業方法	講義	単位・回	1単位・10回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

1. 日本の医療制度を知るために、歴史的背景および現状を理解し、リハビリテーション現場の保険・医療・福祉システムを考察する
2. 地域リハビリテーションを含む現場の諸問題を理解するために、事例検討を通じ考察する

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

映像資料内で提示する

《目標行動(SBO)》

1. 日本の保険・医療・福祉制度の概略を説明できる
2. リハビリテーション現場の諸問題（症例検討を通じ）から、具体的行動目標を示せる

《学生の留意点》

授業は、講義と発表により構成される。
学院内の生活では実感が持てない、臨床で重要な課題を数多く提示します。
よって日常的にリハビリテーションに関連した事象に対して、意識的に情報収集する姿勢が望まれます。

《実務経験のある教員による科目》

当科目は、理学療法士実務のほか社会学分野ならびに介護保険分野実務経験をもとに展開する授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	理学療法概論 II 展開	日本の医療制度の仕組みと診療報酬体系
2		リハビリテーションの現状と関連する諸制度 I
3		リハビリテーションの現状と関連する諸制度 II
4		日本の医療が抱える諸問題の検討
5	デイペート・トレーニング	リスクマネージメントについて
6		
7		
8		
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 基礎理学療法学》

科目名	理学療法研究法演習				
担当者氏名	山形 哲行				
授業方法	演習	単位・回	2単位・20回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

研究的疑問を解決するために、臨床研究および基礎医学研究方法論を理解し、研究を実践する

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

指定しない

《目標行動(SBO)》

1. 研究的的疑問の明確化の方法を説明できる
2. 研究計画書をグループで作成しグループごとに実験を実施する
3. 研究発表を行なえる

《学生の留意点》

授業時間枠だけでは学習時間が不足する、課外においてもグループ学習に努めること

《成績評価の方法》

研究計画書の作成40%、研究報告書の作成40%、研究成果発表20%

《実務経験のある教員による科目》

当科目は山形哲行（理学療法士）が担当し、その実務経験を臨床能力獲得と必要な知識の獲得に活かした授業としている

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	研究法総論	研究計画書に備えられる事項 研究の種類／ 臨床的疑問の整理
2	研究方法論	文献の調べ方と読み方
3	研究方法論	研究方法論①
4	研究方法論	研究方法論②
5	研究計画書	研究計画書の作成
6	データ収集	データ取得
7	データ収集	データ取得
8	データ収集	データ取得
9	データ解析・発表資料作成	解析及び報告書作成
10	研究報告	最終発表会
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 理学療法治療学》

科目名	運動療法学特論				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・20回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

理学療法に応用・展開できるようになるために、より実践的
または先進的な運動療法の技術論を学ぶ

《テキスト》

指定しない

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 各技術論の概要を説明できる
2. 各技術論の理学療法における位置づけを言える
3. 基本的な範囲で評価、実施できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

各回授業内容レポート等

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、理学療法士が担当し、その実務経験を授業内容の講義、実技などにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	足底板療法	
2	ボバース概念に基づく評価と治療①	
3	ボバース概念に基づく評価と治療②	
4	高次脳機能障害と理学療法	
5	スポーツ傷害に対する理学療法	
6	運動学習に基づく理学療法	
7	ADLとその評価 (SAIS・FIM)	
8	精神科領域の理学療法	
9	障害者とスポーツ	
10	疼痛のリハビリテーション	
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	社会福祉学				
担当者氏名	川股 典子				
授業方法	講義	単位・回	1単位・10回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GLO)》

心身障害や高齢などに起因する生活上の困難に対応するため
に、社会福祉全般の現状、高齢者福祉、障害者福祉、介護保険
制度、社会保障制度について知る。

《テキスト》

《参考図書》

《目標行動(SBO)》

1. 社会福祉の概要を説明できる
2. リハビリテーションに関わる社会福祉（高齢者福祉、障害者福祉、介護保険制度、児童福祉）について説明できる

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

課題レポート（100%）

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、社会福祉士が担当し、その実務経験を授業内容の講義、実技などにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	社会保障	社会保障の全体像
2	〃	社会保障と社会福祉
3	老人福祉	高齢社会の背景
4	〃	施設福祉・在宅福祉
5	〃	介護保険制度
6	障害者福祉	「障害」について
7	〃	各種サービスの概要
8	児童福祉	各種サービスの概要
9	地域福祉	各種サービスの概要
10	まとめ	まとめ
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	地域理学療法論				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	講義	単位・回	2単位・15回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

地域におけるリハビリテーションを実現するために、理学療法士が働く地域、地域で生活する人、地域の社会資源、地域における理学療法士の役割について理解する。

《テキスト》

資料を配布する

《参考図書》

一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R.2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本 住宅改修、入浴、トイレが家をバリアフリーに 住宅改修編。

一般財団法人 保健福祉広報協会：国際福祉機器展H.C.R.2019 福祉機器 選び方・使い方 副読本 福祉車両、福祉に役立つ情報機器・電子機器、自助具 自立支援編。

《学生の留意点》

- ・岩谷先生の講義時には形態測定しやすい服装に着替える。
- ・ノートPCがある場合は持参可能（電源を取る延長コード持参）
- ・講義中に課題を行わず、受動的な講義参加は自分だけでなく、協同学習者の学習を阻害する。共に学ぶ場を皆で創ること。
- ・就職希望地域に関する調査を実施する際に、教員側で配慮する必要があればお声掛けください。

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、中村（理学療法士）岩谷（作業療法士）野長瀬（理学療法士）坂田（理学療法士）が担当し、その実務経験を授業内容の講義、実技などにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	①オリエンテーション(坂田)	授業概要 提出課題に関する説明
2	①地域理学療法について(坂田)	地域における理学療法士の役割
3	①地域理学療法の歴史(中村)	地域理学療法の歴史（過去からの経緯）
4	①地域理学療法の今後(中村)	地域理学療法の今後（地域包括ケアシステム 求められるPT）
5	②③④病院から在宅へ(野長瀬)	病院から在宅へ向けて（看護連携について）
6	②③④病院から在宅へ(野長瀬)	病院から在宅へ向けて（福祉用具アドバイス）
7	②③④在宅生活について(岩谷)	在宅生活について（坐位保持の考え方）
8	②③④シーティングについて(岩谷)	シーティングについて（安定した姿勢保持）
9	①②地域調査(坂田)	実習地or就職希望地域の人口動態の確認（J-stat）・就職希望地域の医療・介護資源の確認（Google map）・地域における役割の確認（HP）の調査
10	①②地域調査(坂田)	実習地or就職希望地域の人口動態の確認（J-stat）・就職希望地域の医療・介護資源の確認（Google map）・地域における役割の確認（HP）の調査
11	①②地域調査発表(坂田)	実習地or就職希望地域の課題および地域における役割を説明し、就職した場合、対象者のリハビリテーションを支援する業務内容は、どのような地域貢献に繋がるか説明する
12	③④事例検討(坂田)	ケアプラン・家屋評価・本人の様子を提示する
13	③④事例検討(坂田)	対象者への環境設定をこれまでの講義を活かして検討する
14	③④事例検討(坂田)	対象者への介入について検討する
15	①～④事例検討発表(坂田)	発表

《専門分野 地域理学療法学》

科目名	地域福祉論				
担当者氏名	山本 繁樹				
授業方法	講義	単位・回	1単位・10回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

地域在住の高齢者や障害児者への支援のために、地域福祉の概要、地域包括ケア、地域共生社会の理念、政策、概要について理解する。また地域を基盤とした実践における社会資源の活用、具体的援助論などについて理解する。

《テキスト》

特に指定しない

《参考図書》

随時紹介する

《目標行動(SBO)》

1. 地域福祉の理念・内容などについて説明できる。
2. 社会資源の活用方法について説明できる。
3. 本人や家族への支援方法やケアマネジメント方法について説明できる。

《学生の留意点》

講義のほか、受講生同士によるグループ討議演習など学生参加のもとに考察をすすめる。

《成績評価の方法》

課題レポート (100%)

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、社会福祉士が担当し、その実務経験を授業内容にいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	地域福祉の理念・内容・推進方法	地域福祉の理念・内容・推進方法
2	地域包括ケア、 地域共生社会について	地域包括ケア、地域共生社会の理念、内容、推進方法
3	社会資源の活用	社会資源の活用
4	"	"
5	家族に対する支援	家族に対する支援
6	家族に対する支援	"
7	ケアマネジメントの方法	ケアマネジメントの方法
8	"	"
9	地域福祉における相談援助事例研究	地域福祉における相談援助事例研究
10	"	"
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習III-A				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	実習	単位・回	8単位・0回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。

理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

担当症例に即した

(1)理学療法評価ができる、(2)統合と解釈、問題点抽出、目標設定ができる、(3)治療プログラムを基本的な範囲で立案できる、(4)治療プログラムを実施できる、(5)必要に応じて当初の治療プログラムを変更できる、(6)記録・報告が行える、(7)専門職業人として適切な態度や行動をとることができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書 70%・実習後セミナー 30%

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、理学療法士（坂田）が担当し、その実務経験を授業内容の講義、実技などにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 対象者決定	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定等の確認、実習スケジュールの確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する
2	初期評価	【2週目】評価の一部補助を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
3	初期評価	【3週目】1回の評価全体を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
4	問題点の抽出、目標設定 ・プログラム立案	【4週目】評価した内容から問題点の抽出、目標設定、プログラム立案を臨床実習指導者の助言をもとに実施できる。
5	治療実施	【5週目】積極的な助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
6	治療実施	【6週目】積極的もしくは最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
7	再評価	【7週目】最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する。再評価した内容から問題点の抽出、目標の再設定を臨床実習指導者の助言のもとに実施する。
8	まとめ	【8週目】
9	実習後セミナー	実習を振り返り、報告ができる
10		
11		
12		
13		
14		
15		

《専門分野 臨床実習》

科目名	臨床実習III-B				
担当者氏名	坂田 晋一				
授業方法	実習	単位・回	8単位・0回	開講年次・開講期	4年・後期
ディプロマポリシーに基づいて 重点的に身につける能力					

《一般教育目標(GIO)》

各理学療法の理論と実践を最終的に統合し、指導者の助言のもと、主体的に治療プログラムを計画し、実施できるようになる。

理学療法士および専門職業人としての適切な態度や行動を身につける。

《テキスト》

指定なし

《参考図書》

指定なし

《目標行動(SBO)》

担当症例に即した

1. 理学療法評価ができる。
2. 統合と解釈、問題点の抽出、目標設定ができる。
3. 治療プログラムを基本的な範囲で立案、実施ができる。
4. 必要に応じて当初の治療プログラムを変更できる。
5. 記録・報告が行える。
6. 専門職業人として適切な態度や行動をとることができる。

《学生の留意点》

《成績評価の方法》

指導報告書 70 %・実習後セミナー 30 %

《実務経験のある教員による科目》

本科目は、理学療法士（坂田）が担当し、その実務経験を授業内容の講義、実技などにいかした授業としている。

《授業計画》

回	テーマ	学習内容
1	オリエンテーション 対象者決定	【1週目】オリエンテーション：各施設の規定等の確認、実習スケジュールの確認 実習地に慣れ、実習分野に特有の考え方を知り、それに合わせて行動する
2	初期評価	【2週目】評価の一部補助を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
3	初期評価	【3週目】1回の評価全体を通して、対象者に慣れ、学生なりの観察力、表現力を養成する
4	問題点の抽出、目標設定 ・プログラム立案	【4週目】評価した内容から問題点の抽出、目標設定、プログラム立案を臨床実習指導者の助言をもとに実施できる。
5	治療実施	【5週目】積極的な助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
6	治療実施	【6週目】積極的もしくは最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する
7	再評価	【7週目】最小限の助言、指導の下、評価から治療の一貫した流れを実施する。再評価した内容から問題点の抽出、目標の再設定を臨床実習指導者の助言のもとに実施する。
8	まとめ	【8週目】
9	実習後セミナー	実習を振り返り、報告ができる
10		
11		
12		
13		
14		
15		